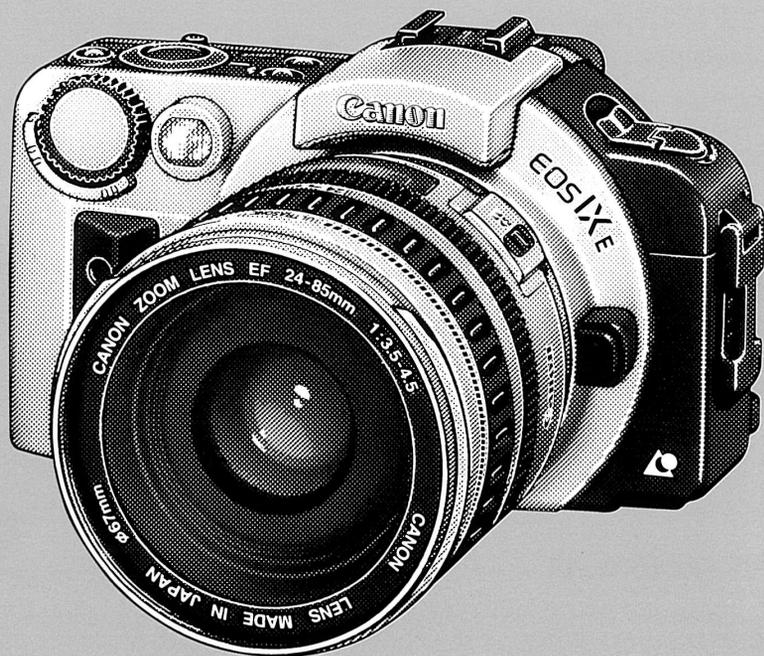


# Canon

# EOS IXE



使用説明書



## キヤノン製品のご愛用ありがとうございます

「EOSの資質とAdvanced Photo System（新システム）の融合を図り、新たな映像表現の世界を提供する。」この情熱から誕生したキヤノンEOS IX Eは、新システム対応の、きわめてコンパクトなAF一眼レフカメラです。一眼レフカメラの最大の魅力は自在なレンズ交換機能。EOS IX Eは、先進のEFマウントを採用していますので、豊富なEFレンズ群がそのままお使いいただけます。

EOS IX Eには、視線入力・3点測距の高精度・高速オートフォーカス、充実した露出制御モード、磁気IX（情報入出力）、カートリッジ途中交換など、写真撮影のための豊富な機能が凝縮されています。ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作になれた上で正しくお使いください。

この使用説明書ではEFレンズを取り付けた状態で説明しています。

本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

- 故障などカメラの不都合が生じる恐れのある注意事項がかかれています。
- 📖 カメラを操作する上で基本操作に加え知っていただきたい事項がかかれています。
- 💡 カメラ操作上あるいは撮影時のヒントがかかれています。

本文中に（→■ページ）と表示されているのは、その箇所と関連のあるページを示しています。あわせてお読みください。

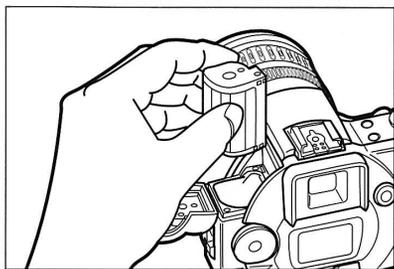
撮影の失敗や事故を未然に防ぐため8ページの「安全上のご注意」および「取り扱い上のご注意」をお読みください。

使用説明書は必要なときいつでも取り出せる場所に置いて、ご活用ください。

### ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行などで大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用するとカメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。  
またEOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## Advanced Photo System (新システム) の特長



### 新・フィルム

新フィルム「IX240フィルムカートリッジ」はフィルムリーダー部のない小型「カートリッジ」を使用しています。これにより今までわずらわしかったフィルムの装填／交換がワンタッチで誰にでも手軽に行えるようになりました。従来の135(35mm)フィルムのように

背ぶたを開けて、フィルムのリーダー部を引き出したり、フィルム先端をフィルムマークに合わせたりする必要はありません。

カートリッジにはフィルムの種類、撮影枚数、フィルム感度などのカートリッジ情報を記録したデータディスク部が設けられており、カメラがこの情報を自動的に読み取ります。また、カートリッジに設けられた「使用状態マーク」により未使用、撮影途中、撮影済み、現像済みのカートリッジ状態を確認することができます。

### カートリッジ途中交換機能

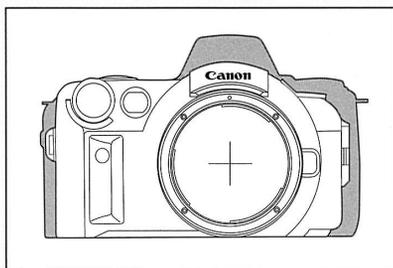
撮影途中でカメラから取り出したフィルムを再度カメラにセットすると、自動的に未撮影コマまでフィルムを巻き上げるので、そこから撮影を続けることができます。

- この機能に対応していないカメラに、撮影途中フィルムを装填すると撮影済みカートリッジとして認識されます。各カメラの機能をご確認ください。



- 未使用
- D 撮影途中
- ⊗ 撮影済 (未現像)
- 現像済

## Advanced Photo System (新システム) の特長

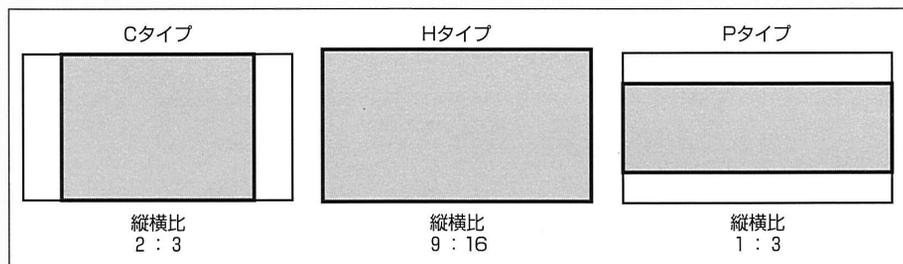


### 新・カメラサイズ

新システムによってフィルムカートリッジのサイズが小型になり、カメラ本体も従来のカメラよりもさらに小型になりました（当社比）。特にこのカメラのサイズはキャノンの小型化技術によって実現したものです。

### 新・プリントタイプ

従来のプリントタイプ(Cタイプ)に加え、ワイドなHタイプ、パノラマのPタイプの3種類のプリントタイプで撮影することができるようになりました。プリントタイプはいつでも変更することができます。



### 新・フィルム情報

#### (IX情報記録／IX:Information Exchange)

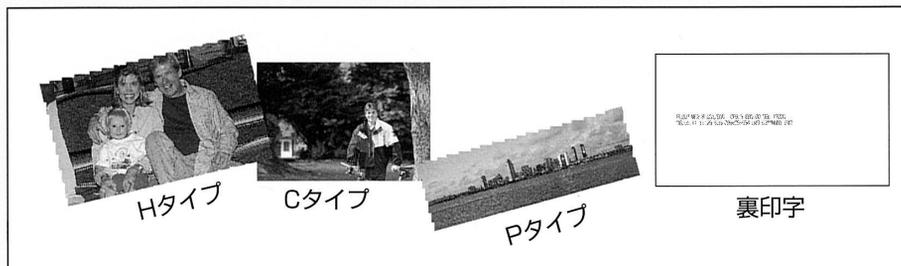
新システムのフィルムには磁気記録部が設けられており、撮影毎にいろいろな情報が磁気情報としてフィルムに記録（IX情報記録）されます。記録されるIX情報には、日付、時刻、タイトル、プリントタイプ、フィルムの天地、ストロボON/OFF、撮影時の明るさ、露出データなどさまざまなものがあります。カメラで記録されたIX情報は、ラボ(現像所)でプリントするときの、プリントタイプ検出、プリント品質の向上、プリント裏面への情報印字などに活用されるしくみになっています。

- データ(日付や時刻)の印字は、プリントの表裏の両方、あるいは裏面

## Advanced Photo System (新システム) の特長

だけのどちらかを選択することができます。

- 記録されるIX情報の内容は、カメラの機種によって異なります。
- EOS IX Eに、タイトル機能はありません。
- 印字文字の大きさ、形状、色、印字位置、データの両面印字の可否はラボによって異なります。



## 新・写真現像・プリント方法

撮り終わったカートリッジは、認定マークのある店で現像・プリントのサービスが受けられます。現像後、写真とインデックスプリント（撮った写真が全て一覧できる）、カートリッジに巻き込まれたネガフィルムが返却されます。

従来の135(35mm)フィルムは現像すると、フィルムはネガシートに入った状態で返却され、再注文（焼き増し）をするときは、ネガを光に透かすなどして、1枚1枚の写真を確認していました。新システムでの焼き増しは、インデックスプリントまたは写真裏面のID番号と同じ番号のカートリッジを認定店に持っていき焼き増しする写真を番号で指定するだけです。



# もくじ

	安全上のご注意 .....8 取り扱い上のご注意 .....12
I 撮影前の準備	ストラップ (吊りひも) の取り付け .....25 1. 電池のセットと電池容量の確認 .....25 2. レンズの取り付け方と取り外し方 .....27
II カメラまかせの全自動撮影	1. □ 全自動で撮る .....34 プリントタイプの切り換え .....36 2. ● ポートレートで撮る .....38
III 自在な応用撮影のための準備	1. 1枚撮りと連続撮影 (フィルム巻き上げ) .....43 2. AFモードとAFフレームの選択 .....44 ・ AFモードの選択 .....44 ・ ONE SHOT AF .....44 ・ AI SERVO AF .....45 ・ AI FOCUS AF .....45 3点AFフレームについて .....46
IV 測光方式について	評価測光 .....62 部分測光 .....62
V 撮影目的に合わせた自在な 応用撮影	1. P・プログラムAEで撮る .....64 2. Tv・シャッター速度を決めて撮る .....66 3. Av・絞り数値を決めて撮る .....68
VI ストロボを使って撮る	1. 内蔵ストロボを利用した撮影 .....84
VII セルフタイマーやリモートコント ローラー (別売) を利用して撮る	セルフタイマーを利用して撮る .....92
VIII フロントプリント(デート)のセット	日付・時刻の選択 .....96
資料	露出表警告表示一覧 .....98 プログラム線図 .....99

すぐ撮影する方のために .....14	各部の名称 .....17
カメラの構え方 .....16	機能設定早わかり .....22
3. シャッターボタンとオートフォーカス .....28	6. カートリッジ途中交換機能について .....32
4. カートリッジの入れ方、取り出し方 .....29	7. 撮影途中カートリッジの再装填 .....33
5. カートリッジ情報の確認 .....31	
3.  風景で撮る .....39	6.  夜景で撮る .....42
4.  クローズアップで撮る .....40	
5.  スポーツで撮る .....41	
AFフレームの選択 .....47	・ 視線サーボAF撮影 .....56
視線入力とは .....50	5. 視線入力力でプリントタイプを選択する .....57
3. 視線入力特性を合わせる .....51	・ 視線入力の上手な使い方 .....58
・ 自分の目の視線特性を登録する (キャリブレーション) .....51	6. AFフレームから外れた被写体に ピントを合わせる .....60
・ 登録した視線の削除 .....54	7. AFの苦手な被写体 (手動ピントあわせ) .....61
4. 視線入力AFで撮影する .....55	
・ ONE SHOT AF撮影 .....55	
中央部重点平均測光 .....62	
部分測光・AEロックで撮る .....63	
4. M・自由に露出を決めて撮る .....70	7. 露出補正の方法 .....78
5. DEP・ピントの合う範囲を決めて撮る .....72	8. AEB自動露出すらして撮る .....80
6. バルブ (長時間露光) 撮影 .....77	9. 全コマ同一条件プリントの指定と解除 .....82
2. EXシリーズスピードライトを利用した E-TTL自動調光撮影 .....85	3. ストロボ撮影の調光補正 .....90
リモートコントローラー RC-1 (別売) で撮る .....93	アイピースカバーの使い方 .....94
	リモートスイッチRS-60E3 (別売) で撮る .....95
日付・時刻の変更方法 .....97	
写真の基本用語解説 .....100	主なアクセサリ .....105
「故障かな?」とお考えになる前に .....103	主な性能の一覧 .....107

# 安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告： この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意： この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

- ⊙ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⊙ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 警告

## 電池

-  このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れなどによる、火災、けがの原因となります。
-  電池を火の中に入れてたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れてください。電池（乾電池）の破裂、液漏れなどによる、火災、けがの原因となります。
-  リチウム電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れなどによる、火災、けがの原因となります。
-  万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
-  電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池（乾電池）の破裂、液漏れなどによる火災、けがの原因となります。
-  電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。

### 警告

#### ストロボ

-  ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
-  ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
-  車の運転者などにおむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。

#### その他取り扱い

-  自分でカメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理は、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
-  落下等により、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  レンズまたは、レンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
-  湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
-  カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
-  自動車などの運転中に、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

## ⚠️ 注意

- ⊘ カメラ（特に金属製のもの）を高温暖状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
- ⊘ カメラ（特に金属製のもの）を低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
- ⊘ レンズまたは、レンズをつけた一眼レフカメラをレンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- ⚠️ カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
- ⊘ カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶついたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- ⚠️ 万一、カメラごと水中に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

# 取り扱い上のご注意

## カメラについて

- (1) このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよく拭きとってください。
- (2) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (3) レンズやカートリッジ室内にゴミが入ったときは、市販のブロアブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズを有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (4) カメラを長期間使用しないときは、電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (5) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (6) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身で各部の作動をチェックしてからご使用ください。

## 表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。表示が薄くなった場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。なお、液晶の特性上、低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## リチウム電池について

カメラはリチウム電池CR123A(またはDL123A)、2本を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。

- (1)電池を交換したとき
- (2)長期間カメラを使用しなかったとき
- (3)シャッターが切れなくなったとき
- (4)寒冷地で撮影するとき
- (5)その他、大切な写真を撮るとき

- 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

## 電圧の低下とカメラの作動について

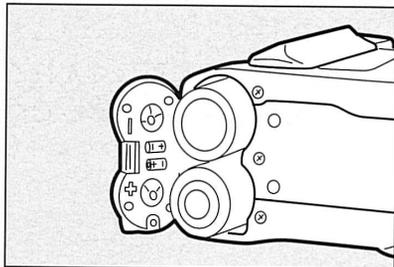
表示パネルに  (空電池マーク) のみが点滅しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。ただし、電池の容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。新品の電池に交換してください。

## フィルムについて

フィルムやカートリッジの性能が変化する場合がありますので、次のような場所にカートリッジフィルムを置かないでください。

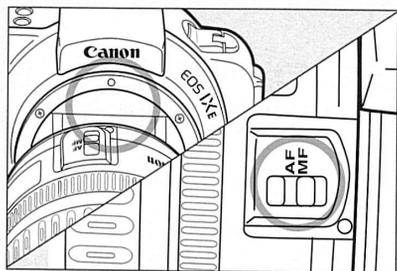
- (1)モーター、トランスなど強い磁気が発生する場所
- (2)温度や湿度の高い場所

# すぐ撮影する方のために



## 1 電池を入れます。

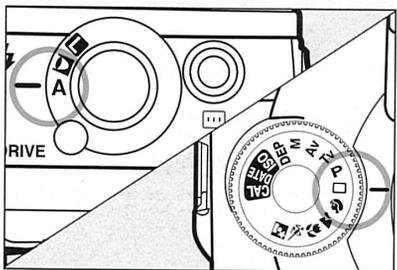
電池室のふたの表示にしたがってリチウム電池CR123A(またはDL123A)を2本入れます。



## 2 レンズを取り付けます。

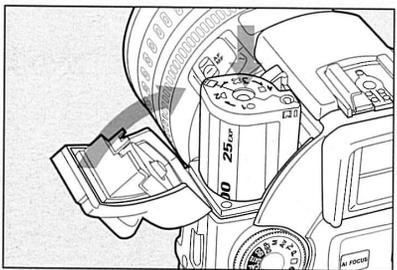
レンズとカメラの赤いマークを合わせて、カチリと音がするまでレンズを時計方向に回します。

## 3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにします。



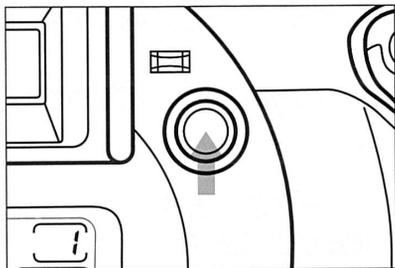
## 4 メインスイッチをAにします。

## 5 モードダイヤルを□(全自動)にします。



## 6 カートリッジを入れます。

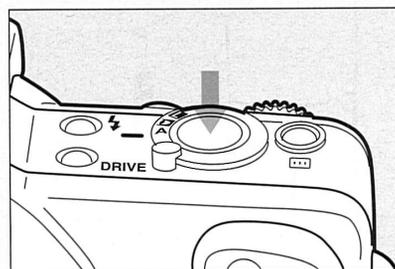
- カートリッジ室ふたで、カートリッジを押し下げようとしてふたを閉めます。
- フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます(→29ページ)。



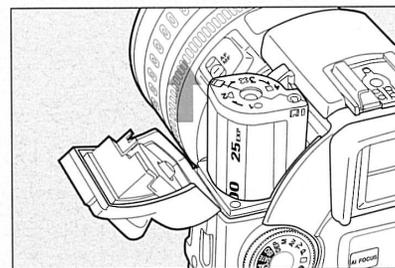
7 プリントタイプ切り換えボタンで  
プリントタイプを選択します。



8 ピントを合わせます。  
写したいもの(被写体)をファインダー中  
央に捉え、軽くシャッターボタンを押し  
てピントを合わせます。



9 撮影します。  
さらにシャッターボタンを押し  
て撮影します。  
● 被写体が暗いときや逆光のときは、内蔵  
ストロボが自動的にポップアップして発  
光します。

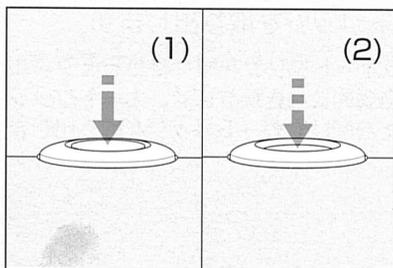
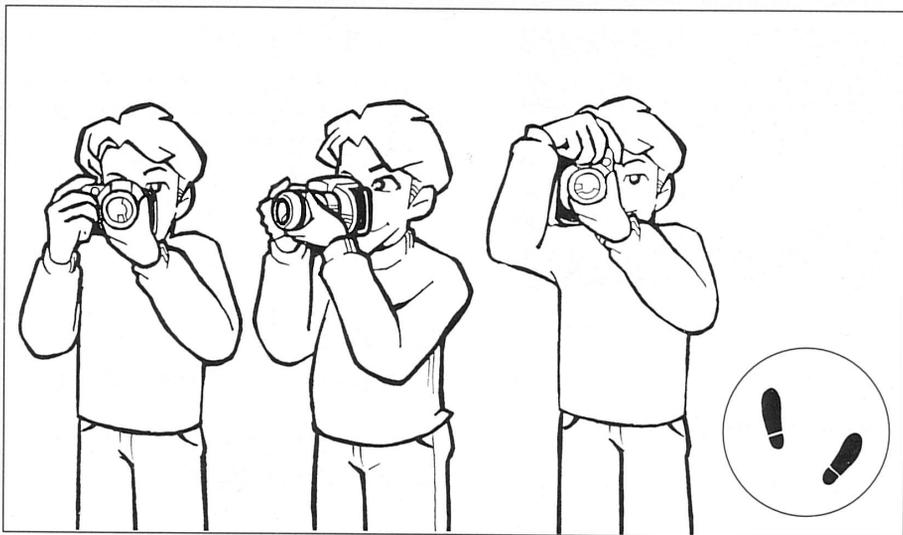


10 カートリッジを取り出します。  
1本のカートリッジを撮り終わるとフィル  
ムは自動的に巻き戻ります。カートリッジ  
室ぶたを開けてカートリッジを取り出し  
ます。

# カメラの構え方

鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

- カメラのグリップ部を右手で包むようにしっかりと握り、肘を軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーを覗きます。
- 両足は揃えずに片足を軽く踏み出して体を安定させます。



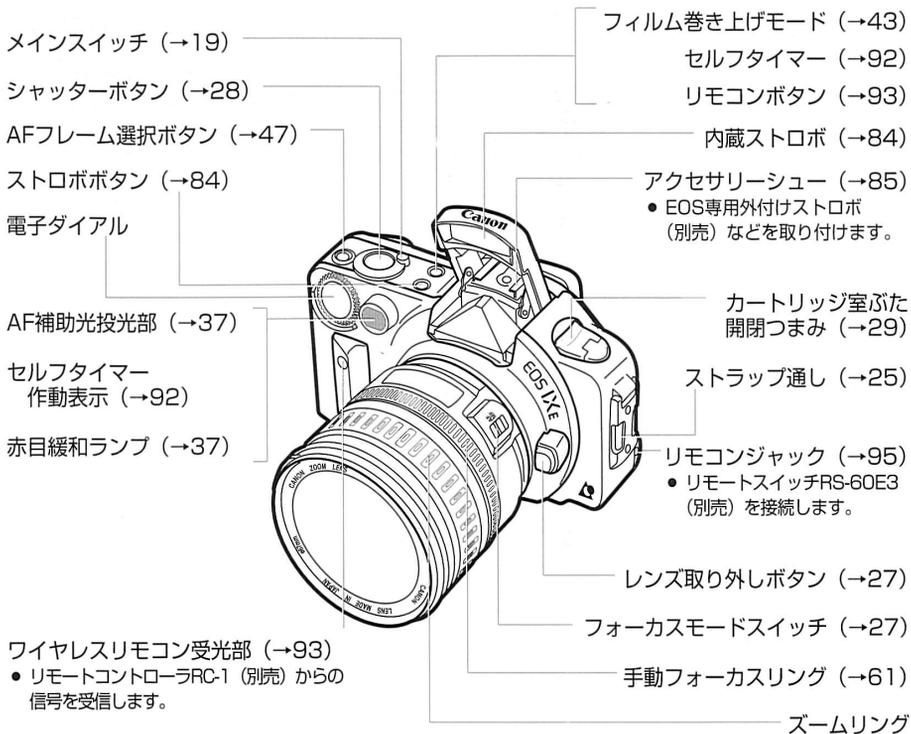
## シャッターボタンについて

シャッターボタンは軽く押すとピントが合い(1)、さらに押すとシャッターが切れます(2)。シャッターボタンは静かにゆっくり押ししてください。

# 各部の名称

- メインスイッチとモードダイヤルは、回して希望する機能を選びます。
  - マークのないところへ回すことはできません。
- 電子ダイヤル操作には、単独操作とボタン押し併用操作の2種類があります。
- 操作をわかりやすくするために、
  - 操作ボタンは、原則として「1ボタン1機能」になっています。
  - 表示パネルの表示枠の色は、関連する操作ボタンの色に合わせてあります。
- 表示の点滅は警告です。(→98)

## 前面



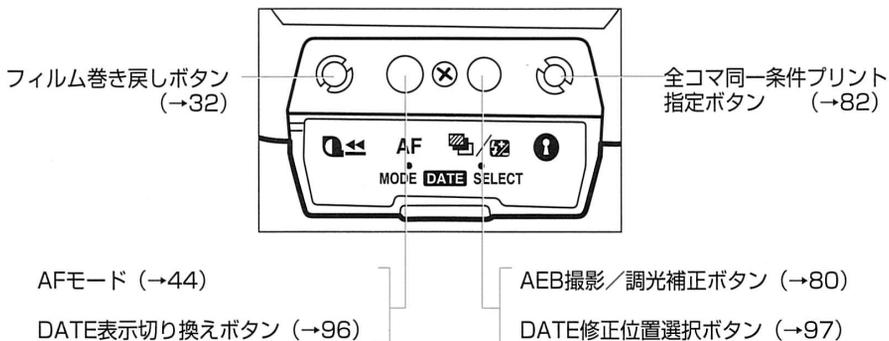
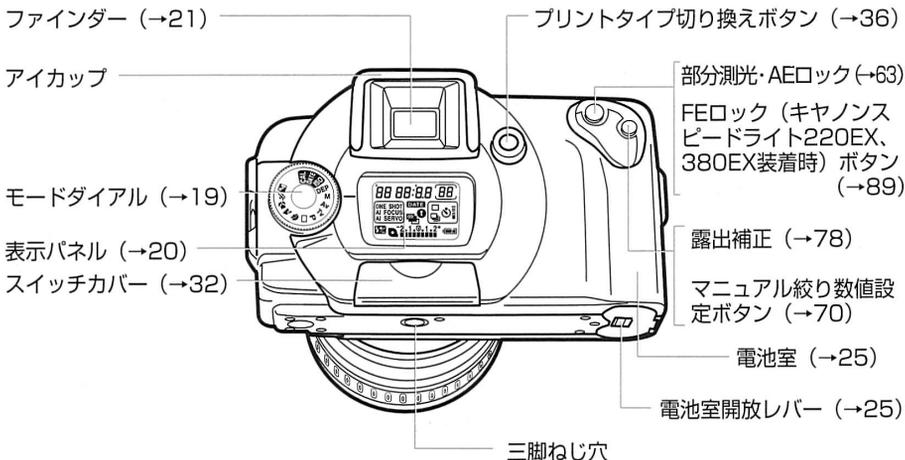
- (→■) の数字は参照ページを示しています。



フィルム巻き上げモードボタンの色 (ダークブルー) と、表示パネル内のフィルム巻き上げモード表示枠の色 (ダークブルー) は対応しており、わかりやすくなっています。

# 各部の名称

## 背面



- (→■) の数字は参照ページを示しています。



AFモードボタンの色 (ダークグレー) と、表示パネル内のAFモード表示枠の色 (ダークグレー) は対応しており、わかりやすくなっています。

## モードダイヤル

モードダイヤルは4つの機能ゾーンに分けられています。

### □：全自動 (→34)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。
- シャッターボタン以外の、ボタンや電子ダイヤルによる操作はできません。

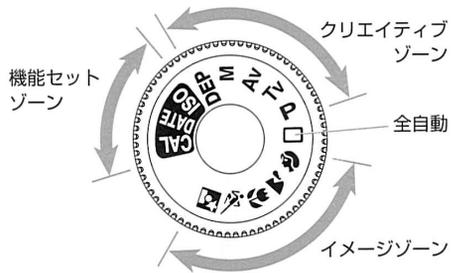
### イメージゾーン

カメラまかせの状況別全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。
- 👤：ポートレート (→38)
- 🏞️：風景 (→39)
- 🌿：クローズアップ (→40)
- 🏈：スポーツ (→41)
- 🌃：夜景 (→42)

### メインスイッチ

- ：ロック位置  
カメラを使用しないときはこの位置にします。カメラは作動しません。
- ▶：視線マーク  
視線入力を使った撮影をするとき、この位置にします。
- A：視線入力なしで撮影するとき、この位置にします。



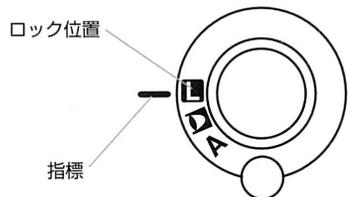
### クリエイティブゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

- P：プログラムAE (→64)
- Tv：シャッター優先AE (→66)
- Av：絞り優先AE (→68)
- M：マニュアル露出 (→70)
- DEP：深度優先AE (→72)

### 機能セットゾーン

- ISO：手動フィルム感度設定 (→79)  
カートリッジ情報確認 (→31)
- DATE：日付/時刻写し込み (→96)
- CAL：キャリブレーション (→51)



- (→■) の数字は参照ページを示しています。

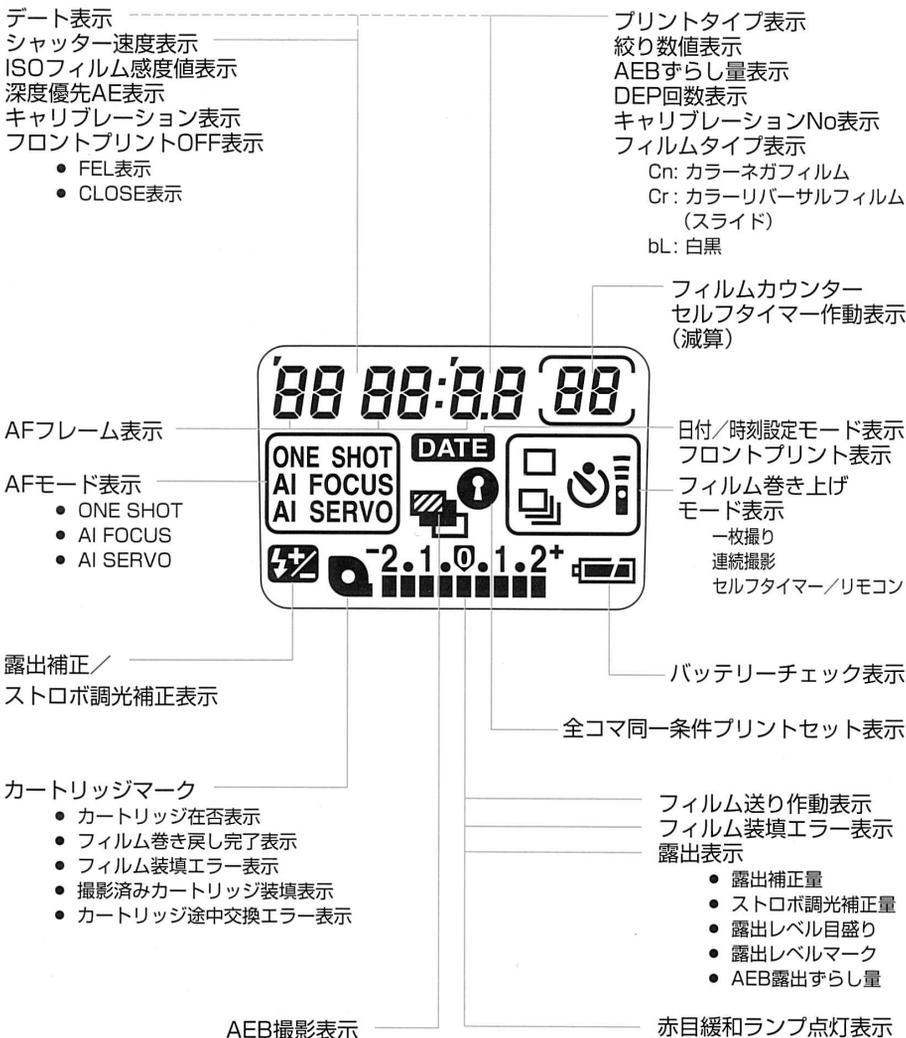


カメラを使用しないときはメインスイッチを■にしておいてください。カバンの中などで物がシャッターボタンにあたって、シャッターボタンが押され続けていたために電池が消耗してしまった、ということがなくなります。

## 各部の名称

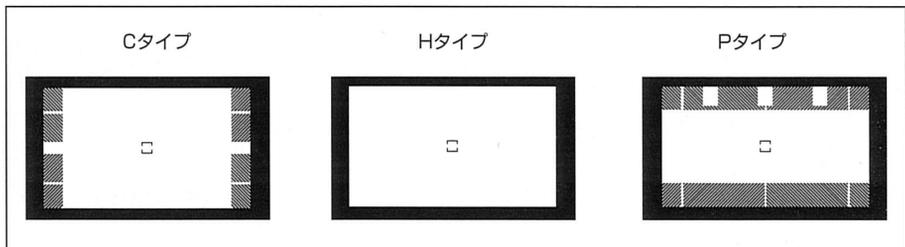
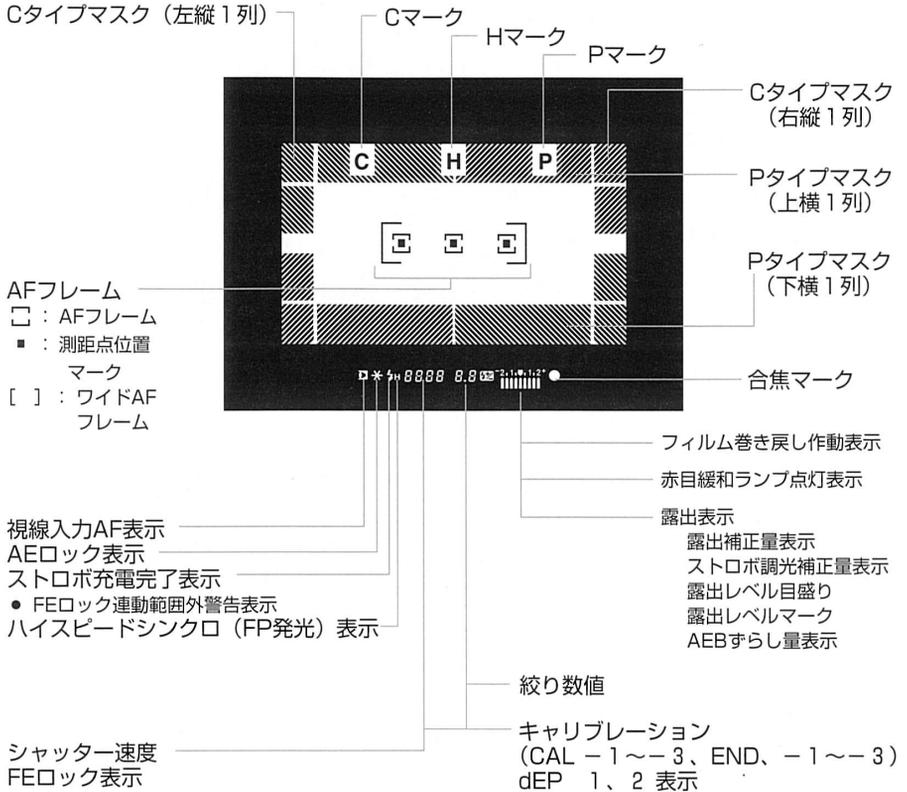
### 表示パネル

下の図は全てを表示したものです。実際にはそのときに必要な部分が表示されます。



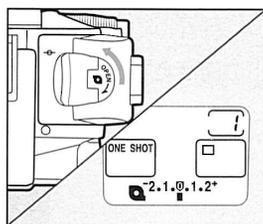
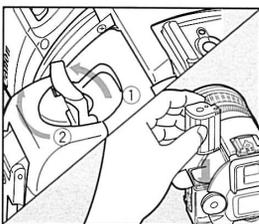
## ファインダー内表示

下の図は全てを表示したものです。実際にはそのときに必要な部分が表示されます。

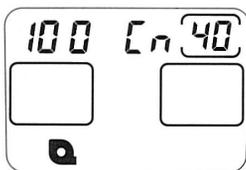
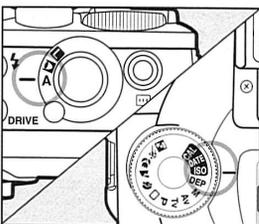


# 機能設定早わかり

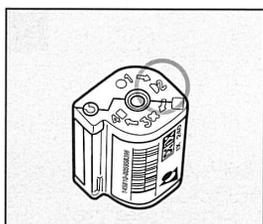
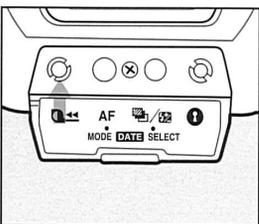
カートリッジの  
入れ方  
(→29ページ)



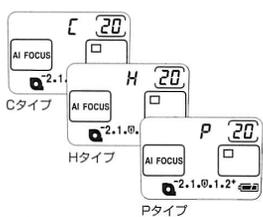
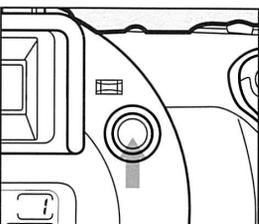
カートリッジ  
情報の確認  
(→31ページ)



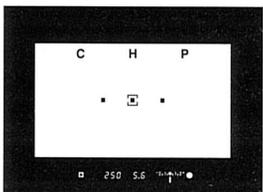
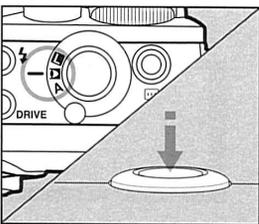
フィルム途中  
巻き戻し方法  
(→32ページ)



プリントタイプ  
の切り換え  
(→36ページ)

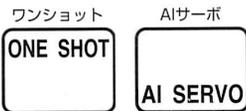
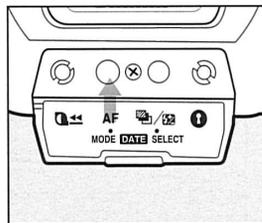


視線でプリント  
タイプを選択  
する  
(→57ページ)

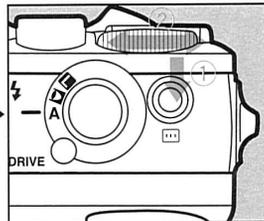
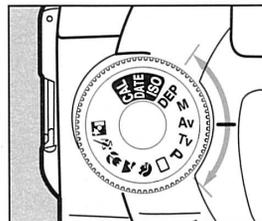


フォーカス関係

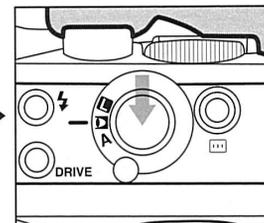
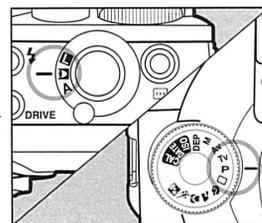
AFモードの変更  
(→44ページ)



AFフレーム  
の選択  
(→47ページ)

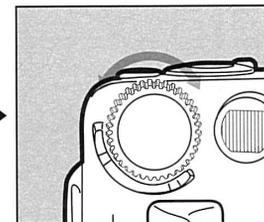
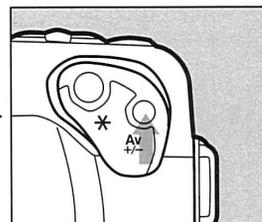


視線入力AFで  
の撮影  
(→49ページ)

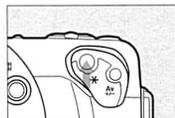


露出関係

露出を補正する  
(→78ページ)



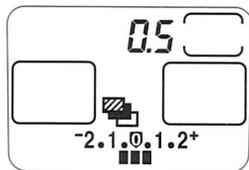
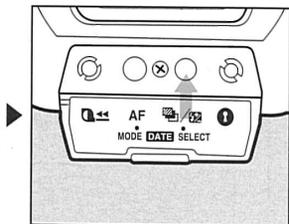
AEロックして  
撮影する  
(→63ページ)



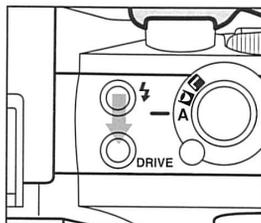
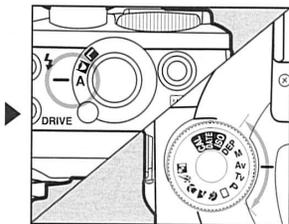
# 機能設定早わかり

露出関係

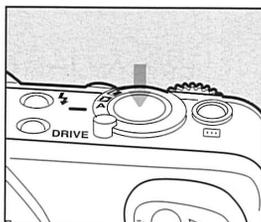
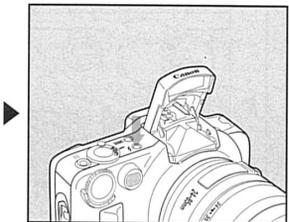
AEBで撮る  
(→80ページ)



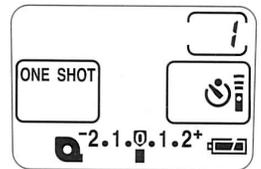
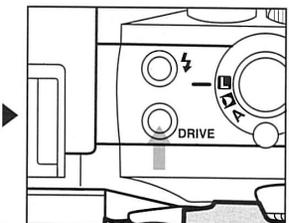
フィルム巻き上げ  
モードの変更  
(→43ページ)



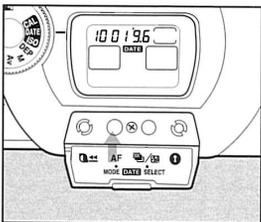
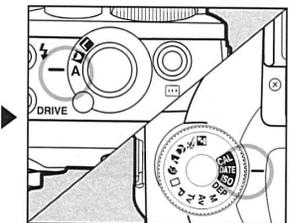
内蔵ストロボで  
撮影する  
(→84ページ)



セルフタイマー  
で撮影する  
(→92ページ)



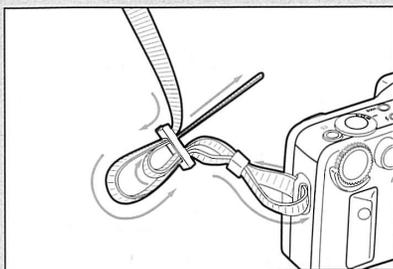
日付/時刻を  
入れて撮る  
(→96ページ)



その他

# I 撮影前の準備

## ストラップ（吊りひも）の取り付け

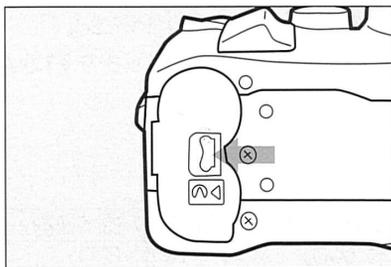


ストラップ（吊りひも）の先を止め具の内側になるように通します。ストラップを引っばっても止め具の部分がゆるまないことを確かめてください。

ストラップをつけた状態でカメラを肩から下げると、レンズを保護するために、レンズが下を向きます。

- ストラップにはアイピースカバー（→94ページ）がついています。

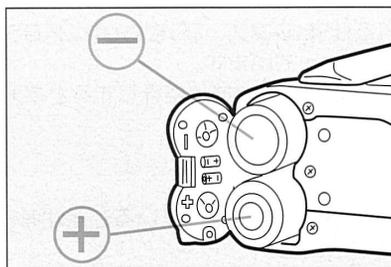
## 1. 電池のセットと電池容量の確認



### 電池のセット

電池はリチウム電池CR123A(またはDL123A)を2個使用します。

- 1 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室のふたを開けます。



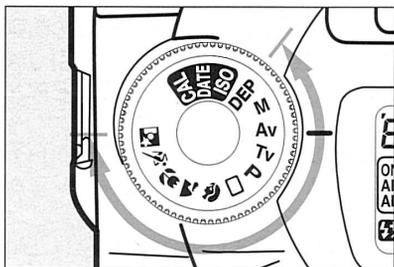
- 2 「+」「-」の方向をまちがえないよう電池室のふたの表示にしたがって電池を入れます。

- 3 電池室のふたを閉じます。



カメラ本体の電池はデータ用電池を兼ねています。

## I 撮影前の準備



### 電池容量の確認

- 1 モードダイヤルを機能セットゾーン以外のいずれかにセットします。
- 2 メインスイッチを **M** か **A** にします。表示パネルに電池マークが表示されます。電池マークは容量を表し、その意味は次のとおりです。

- : 電池の容量は十分です。
- : 新しい電池を用意してください。
- : もうすぐ電池切れになります。
- : シャッターが切れません。新しい電池と交換してください (→13ページ)。

- 電池容量の確認はメインスイッチを **M** か **A** にするたびに行われます。

### 撮影可能本数

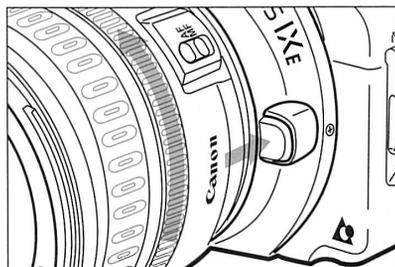
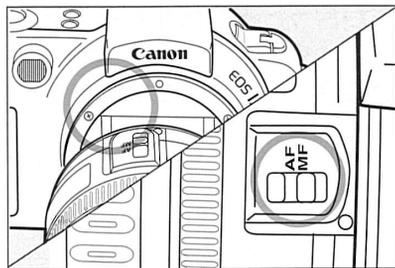
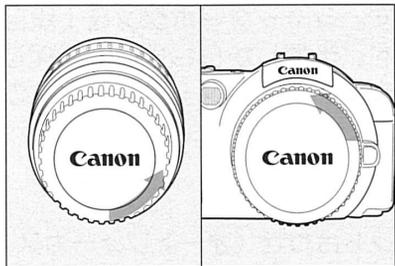
温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20℃)	90本 (100)	35本 (40)	18本 (20)
低温 (-20℃)	45本 (50)	15本 (18)	7本 (9)

- テストは、新品電池、EF24 - 85mm F3.5 - 4.5USMレンズ、25枚撮りIX240フィルム、視線入力AFを使って、当社の試験条件で行なっています。
- 撮影時以外でもオートフォーカスを行ったり、フィルムを入れずに空撮りすると電池が消耗し撮影本数が少なくなります。
- ( ) 内は視線入力なしのときの撮影本数です。



- 表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れなおしてください。
- 撮影前には必ず電池の容量を確認してください。
- 地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池をご用意ください。

## 2. レンズの取り付け方と取り外し方



### レンズの取り付け

- 1 レンズのダストキャップとカメラのボディキャップを矢印の方向に回して外します。
- 2 レンズとカメラの赤いマークを合わせてはめこみ、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。
- 3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFIにします。



- MF（あるいはM）になっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス作動中は、レンズの回転する部分に触れないでください。

- 4 レンズキャップを外します。

### レンズの取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずします。



カメラとレンズを正常に作動させるために、レンズを外したときは電気接点やレンズ部を傷つけないよう取り付け面を上にして置くか、レンズのダストキャップを取りつけて置いてください。



# 3. シャッターボタンとオートフォーカス

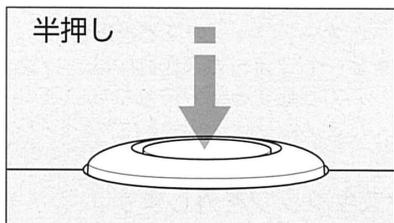
シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを1段階まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに深く押し2段階まで押すことを「全押し」といいます。シャッターボタンは次のような働きをします。



## 半押し

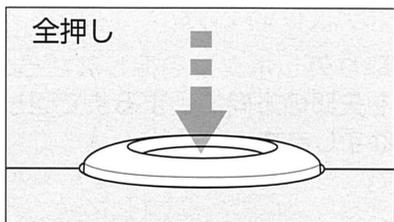
自動ピント合わせ（オートフォーカス、AF）が働き、写したいもの（被写体）にピントが合うと被写体をとらえたAFフレームが点灯し、ファインダー内右下に緑色の合焦ランプが付きます。

- AFフレームは3つあります。
- AI SERVO AFにして、AFフレームを自動選択に設定するとAFフレームは点灯しません。
- AI SERVO AFにすると合焦マークは点灯しません。



同時にシャッター速度と絞り数値が表示パネルとファインダー内に表示されます。

- シャッターボタンから指をはなしても露出値は4秒間はそのまま表示されています。



## 全押し

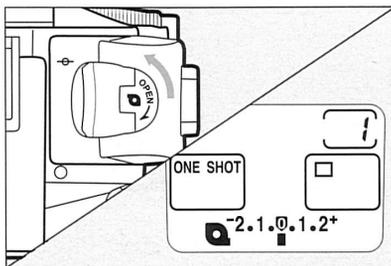
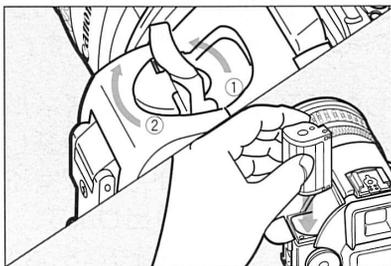
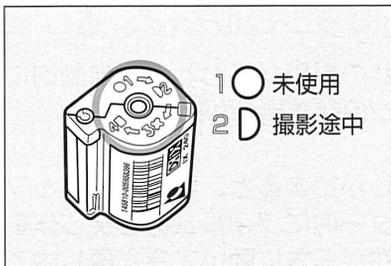
シャッターが切れて撮影が行われます。



シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ぶれ」といい、全体がぼけた写真になってしまいます。シャープな写真を撮るために次の点に注意してください。

- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- シャッターボタンに指の腹をかけ、右手全体に握るような感じの力を入れて、静かに押します。

# 4. カートリッジの入れ方、取り出し方



## カートリッジの入れ方

フィルムは専用のIX240カートリッジフィルムをお使いください。

- 従来の135(35mm)フィルムは使用できません。
- カートリッジの使用状態マークが○(未使用)またはD(撮影途中)のものをご使用ください。

1 メインスイッチをAにします。

2 カートリッジ室ふた開閉つまみを起こして矢印方向に回し、カートリッジ室ふたを開きます。

3 カートリッジを入れます。

- カートリッジは途中で軽く止まります。
- カートリッジの使用状態マーク側を上にして入れます。
- 逆方向には入りません。

4 カートリッジ室ふたでカートリッジを押し込むようにして閉じ、カートリッジ室ふた開閉つまみを元の位置に戻します。

5 表示パネルにカートリッジマークとフィルム感度値、フィルム枚数が点灯し、フィルムの巻き上げが始まります。

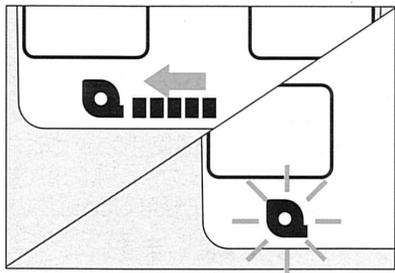
- フィルム巻き上げが終わると、フィルムカウンタ表示部にはフィルムの1コマ目を示す「1」が表示されます。



- カメラにカートリッジが入っているときに、絶対カートリッジ室ふたをあげないでください。万一カートリッジ室ふたを開けるとフィルムに光が当たるため表示パネルに「L E」が表示され、同時に電子音「ピピピ」が鳴って警告します。速やかにカートリッジ室ふたを閉めてください。
- カートリッジが正しくセットできなかったときは、カートリッジマークが点滅して警告します。カートリッジを取り出し、入れ直してください。



撮影済みカートリッジや現像済みカートリッジを入れると●が点滅して警告します。



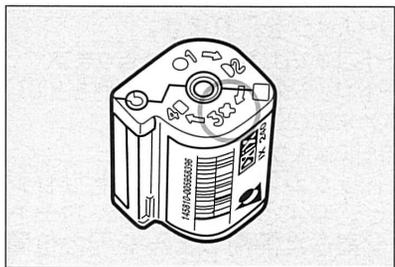
## カートリッジの取り出し方

規定枚数の撮影が終わると、自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。

巻き戻しが始まると、表示パネルとファインダー内にフィルム巻き戻し作動表示が右から左に動いて巻き戻し中であることを示します。同時にフィルムカウンターの数字も減っていきます。

巻き戻しが終了すると、表示パネルの●（カートリッジマーク）が点滅します。表示を確認しカートリッジ室ぶたを開けてフィルムを取り出します。

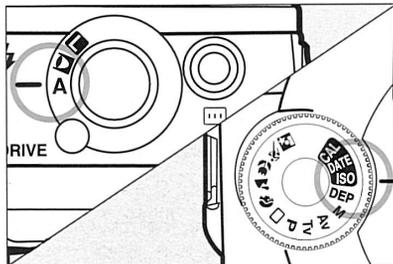
- カートリッジマークの使用状態マークが☞になっていることを確認します。



撮り終わったカートリッジは、認定マークのあるお店で現像・プリントのサービスが受けられます。

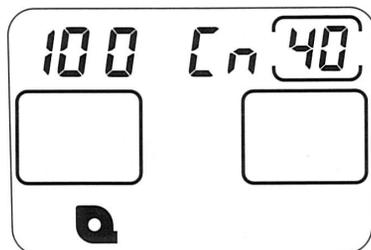


# 5. カートリッジ情報の確認

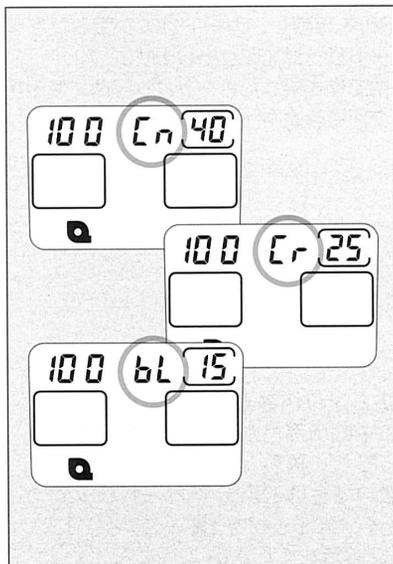


カメラに入れたカートリッジの種類を確認することができます。

- 1 メインスイッチを **A** か **A** にします。
- 2 モードダイヤルを **ISO** にします。
- 3 シャッターボタンを押します。



- 表示パネルにフィルム感度、フィルムタイプ、フィルム枚数が図のように表示されます。



フィルムタイプ表示は以下のとおりです。

Cn: カラーネガフィルム

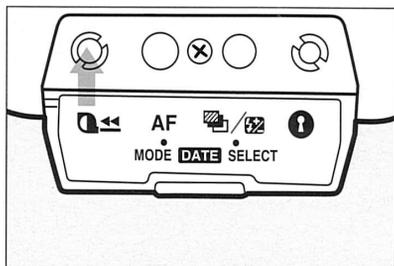
Cr: カラーリバーサルフィルム  
(スライド)

bL: ブラック (モノクロフィルム)

# 6. カートリッジ途中交換機能について

## フィルムの途中巻き戻しと再装填

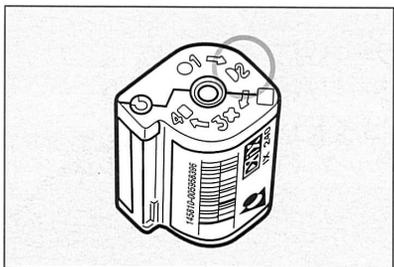
このカメラは、新システムの大きな特長のひとつである「カートリッジ途中交換機能」に対応しています。この機能は、撮影途中で巻き戻しを行ったカートリッジを再度カメラに装填すると、撮影済みの部分を自動給送し、未撮影コマに自動セットするという便利な機能です。本機能を活用すると、撮影途中でのカートリッジフィルムの変更、特性の異なった複数のカートリッジフィルムの交互撮影などを、いつでも任意に行うことができます。



## フィルムの途中巻き戻し

撮影の途中で、フィルムを巻き戻すときは、スイッチカバー内の  (途中巻き戻しボタン) を押します。ただちに途中巻き戻しが始まります。

- 巻き戻し完了(表示パネルの  カートリッジマーク点滅)を確認し、カートリッジ室ぶたを開けてカートリッジを取り出します。
- 撮影途中で巻き戻したカートリッジは、使用状態マークが撮影途中を示す D になります。



「フィルム巻き戻し中に表示パネルにフィルム送り作動表示とフィルムカウンターが点滅した場合はフィルム巻き戻し中に不都合が生じたことを示しています。この場合は一度電池を入れ直してから再度フィルム巻き戻しボタンを押してください。それでも作動しない場合はご自分でカートリッジを取り出すことはできません。カメラのメインスイッチを  (ロック) にして、お近くのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

# 7. 撮影途中カートリッジの再装填

新品カートリッジの装填と同じ手順で、撮影途中カートリッジをカメラに入れます。(→29ページ)

- カメラが、自動的に未撮影コマまでフィルムを送ります。



- 外付けストロボを取り付けて、ストロボのメインスイッチを入れた状態では、撮影途中のフィルムが再装填できない場合があります。このときは表示パネルに「- - - - -」が点灯して警告します。警告が出た場合は撮影途中のカートリッジを取り出し、ストロボのメインスイッチを切ってから入れ直してください。
- テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、撮影途中カートリッジの再装填ができない場合があります。このときは表示パネルに「- - - - -」が点灯して警告します。警告が出た場合は撮影途中カートリッジを取り出してください。なお、この現象が起きた場合でも、新品カートリッジ装填による撮影は行うことができます。
- カートリッジ途中交換機能に対応していないカメラ(例：キヤノンIXYなど)に、撮影途中カートリッジを装填することはできません。カメラに入れるとフィルム送りはされず、撮影済み状態にセットされてしまいますので、ご注意ください。

## Ⅱ カメラまかせの全自動撮影

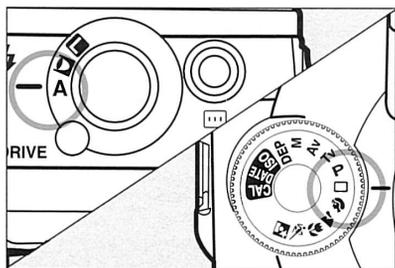
ここではモードダイヤルの□、、、、、、を使って簡単に写真を撮る方法を説明しています。□（全自動）やイメージゾーンは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影ができるよう、全てが自動セットされています。また、誤操作による失敗を防ぐために、シャッターボタンとプリントタイプ切り換えボタン以外の、カメラの表面に配置されているボタンや電子ダイヤルによる操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。



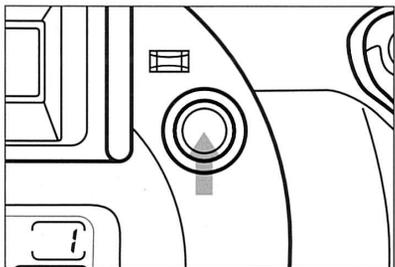
- 各操作の前に、まずはメインスイッチをAにしてください。

### 1. □全自動で撮る

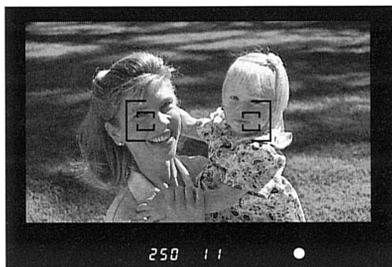
□（全自動）での撮影は、シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。ワイドなAFフレームで被写体をとらえますので誰でも簡単にきれいな写真が写せます。



- 1 メインスイッチをAにします。
- 2 モードダイヤルを□（全自動）にします。



- 3 プリントタイプ切り換えボタンを押して、表示パネルに希望するプリントタイプを表示します（→36ページ）。

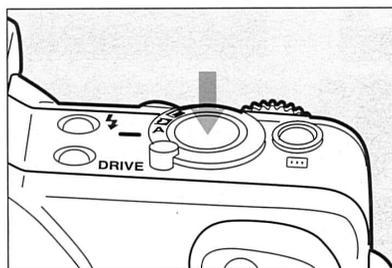


### 4 ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせます。

- AFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、60ページの「6. AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる」を参照してください。

### 5 シャッターボタンを半押しします。被写体にピントが合いシャッター速度と絞り数値が自動的に決まります。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- ピントがあったAFフレームが表示され、同時にファインダー内右下に緑色の合焦ランプ（●）がつかます。
- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。
- 被写体が暗いときや日中の逆光状態などではストロボが自動的にあがって発光します。



### 6 シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 連続撮影はできません。



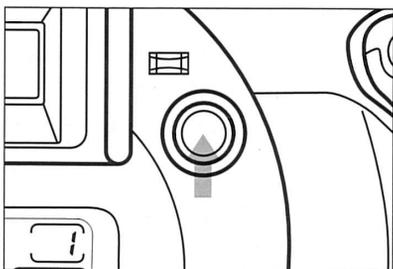
#### ● 合焦マークの点滅

合焦マークが点滅するときはシャッターが切れません。61ページを参照してください。

## II カメラまかせの全自動撮影

### プリントタイプの切り換え

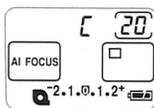
プリントタイプは撮影の途中で任意に切り換えることができます。プリントタイプにはCタイプ、Hタイプ、Pタイプの3種類があります。撮影目的に合わせて切り換えてください。



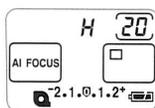
プリントタイプ切り換えボタンを押して、表示パネルに希望するプリントタイプを表示します。

- プリントタイプ切り換えボタンを押すたびに表示パネルとファインダー内の表示が下図のように変わります。

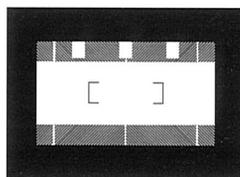
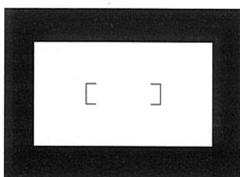
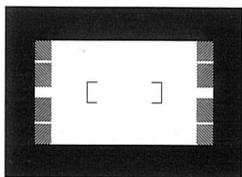
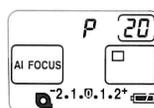
Cタイプ



Hタイプ



Pタイプ



□(全自動)と※(スポーツ)以外では、視線入力でもプリントタイプを選択することができます(→57ページ)。

### AF補助光について

ピントが合いにくい状況では自動的にAF補助光が被写体を照らし、ピントを合わせやすくします。

- EOS専用外付けストロボ540EZを併用したときは常に540EZのAF補助光が点灯します。その他の専用外付けストロボではカメラのAF補助光が点灯しますが、手動で中央のAFフレームを選択した場合に限り専用外付けストロボのAF補助光が点灯します。

### ストロボの自動発光について

□(全自動)、 (ポートレート)、 (クローズアップ) および  (夜景) では被写体が暗いときや、日中の逆光状態のときはストロボが自動的に上がって発光します。



誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルの電池マークが点滅して (  ) 警告します。その場合はシャッターボタンを半押ししてください。電池マークの点滅は止まります。



ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用した写真を撮りたいときは、**P** (プログラムAE、→64ページ) で撮影することをおすすめします。

### 赤目緩和機能について

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人物の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。□(全自動)、 (ポートレート) および  (夜景) で、自動的に赤目緩和ランプがつき、写る人の瞳を小さくして赤目現象を出にくくします。

- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内の赤目緩和ランプ点灯表示が行なわれて赤目緩和ランプが点灯していることを知らせます。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でもシャッターボタンを全押しすると撮影することができます。
- 赤目緩和機能は外付けストロボ使用時も機能します。



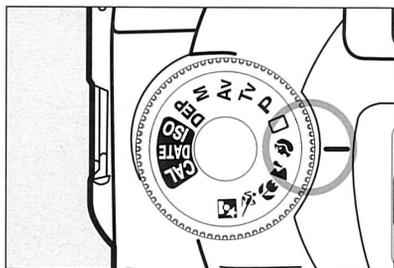
- 赤目緩和効果の度合には個人差があります。
- この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 室内を明るくする、写したい人に近づくとより効果的です

## 2. ポートレートで撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 被写体が暗いときや日中の逆光状態などでは、ストロボが自動的にあがって発光します。



モードダイヤルを  (ポートレート) にします。

- 撮影の手順は「1. 全自動で撮る」(→34ページ) と同じです。



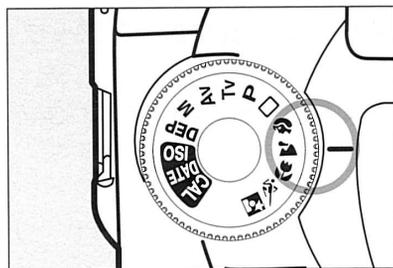
- 被写体の上半身がファインダーの中にいっぱいになるくらいにすると背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとよいでしょう。
- 望遠系のレンズを使用すると背景をさらに効果的にぼかすことができます。ズームレンズの場合はレンズを望遠側(24-85mmのレンズなら85mmです)にしてください。

### 3. 🏔️ 風景で撮る



広がりのある風景や夕焼けなどを撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- 内蔵ストロボは発光しません。



モードダイヤルを🏔️(風景) にします。

- 撮影の手順は「1. 全自動で撮る」(→34ページ)と同じです。
- 連続撮影はできません。



- ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側にしてください(24-85mmのレンズなら24mmです)。近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。
- プリントタイプをPにするとさらに雄大な感じを表現することができます(→36ページ)。



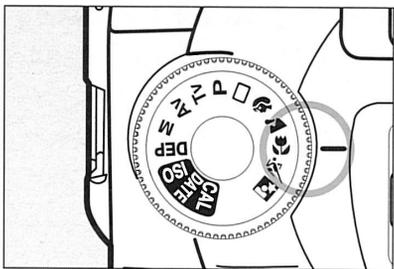
シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

## 4. クローズアップで撮る



レンズに内蔵されているクローズアップ撮影用のマクロ機構を利用して、草花や昆虫を大きく撮るようなときに使用します。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- 被写体が暗いときや日中の逆光状態などでは、ストロボが自動的にあがって発光します。



モードダイヤルを  (クローズアップ) にします。

- 撮影の手順は「1. 全自動で撮る」(→34ページ)と同じです。
- 連続撮影はできません。



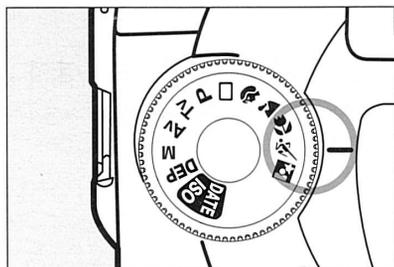
- 使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には別売のEF50mm F2.5コンパクトマクロ、EF100mm F2.8 マクロ、EF180mm F3.5 L マクロUSMの使用をおすすめします。

## 5. スポーツで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- ストロボは発光しません。



モードダイヤルを  (スポーツ) にします。

- 撮影の手順は「1. 全自動で撮る」(→34ページ) と同じです。



- フィルム感度ISO400の高感度フィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影には200mm～300mm程度の望遠系のレンズをおすすめします。



シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

## 6. 夜景で撮る



夕暮れや夜景を背景にして人を撮影するときに使用します。

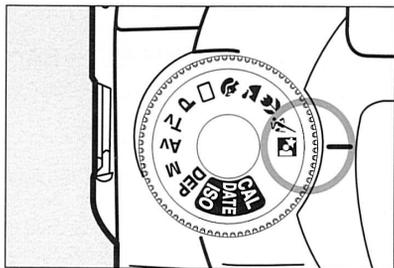
人にはストロボ光が当たり背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。

手ぶれを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- ピントが合うと電子音が「ピピッ」と鳴ります。

モードダイヤルを  (夜景) にします。

- 撮影の手順は「1. 全自動で撮る」(→34ページ)と同じです。
- 連続撮影はできません。



- シャッター速度が遅くなります。ストロボが発光してもすぐには動かないよう写真を撮られる人に声をかけてください。セルフタイマーを併用した撮影ではAF補助光が一瞬光って撮影終了を示します。
- 人物が入らない夜景のみの撮影には  (風景) で撮影してください。
- EOS専用外付けストロボ併用時も  (夜景マーク) で撮影できます。
- 日中撮影は全自動モードと同じ撮影となります。

# Ⅲ 自在な応用撮影のための準備

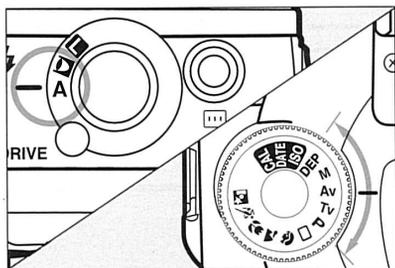
クリエイティブゾーンでの撮影を積極的に活用するために有効な機能の設定や変更の方法について説明します。

- 各操作の前に、先ずはメインスイッチをAにしてください。

## 1. 1枚撮りと連続撮影

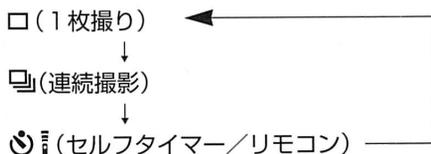
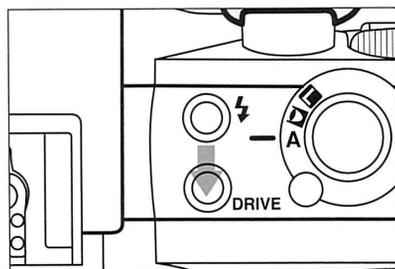
フィルムの巻き上げには1枚撮りと連続撮影の2種類があります。撮影目的に応じて選択してください。

- フィルム巻き上げモードの変更はクリエイティブゾーンのみで有効です。



- 1 メインスイッチをAにします。
- 2 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。
- 3 フィルム巻き上げモードボタンを押して表示パネルに希望するフィルム巻き上げモードを表示します。

- フィルム巻き上げモードボタンを押すと、表示パネルのフィルム巻き上げ表示が次のように変わります。



- (一枚撮り) : 撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。
- ▣ (連続撮影) : シャッターボタンを押し続けている間、1秒間に約2.5コマで連続して撮影します。
- Ⓜ (セルフタイマー/リモコン) : セルフタイマー撮影 (→92ページ) やリモコンを利用した撮影 (→93ページ) を行います。

## 2. AFモードとAFフレームの選択

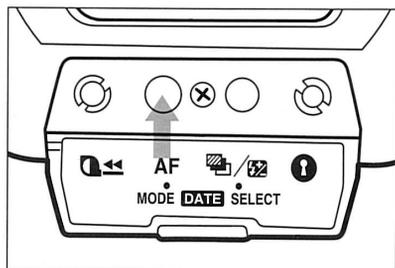
### AFモードの選択

AFモードはオートフォーカスの作動特性のことをいいます。種類は●ONE SHOT AF ●AI SERVO AF ●AI FOCUS AFの3種があります。

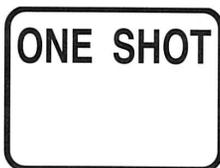
クリエイティブゾーンでは、●ONE SHOT AF ●AI SERVO AFのどちらかを選ぶことができます。被写体の状況に合わせ、スイッチカバー内にあるAFモードボタンを押して選択します。ボタンを押すたびに、

●ONE SHOT AF と●AI SERVO AFが交互に切り換わります。

- AI FOCUS AFは、□全自動モードで自動セットされるAFモードです。クリエイティブゾーンで選択することはできません。



ワンショット



AIサーボ



### ONE SHOT AF

静止している被写体の撮影に適しているモードです。ピントが合わないとシャッターが切れないため、ピンぼけ写真を防ぐことができます。シャッターボタンを半押しするとAFが作動しピントが合ったAFフレームが点灯し、ファインダー内に合焦マーク(●)が点灯します。ピントが合うと同時に露出が決まります。



シャッターボタン半押しの状態を保つとピントと露出が固定されたままになり、ピントを合わせた後に構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影ができます。



- クリエイティブゾーンでは、ピントがあっても電子音はなりません。
- 連続撮影は一コマ目で決まったAF、AEロック撮影になります。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはシャッターが切れません。構図を変えて撮影するか61ページの「AFの苦手な被写体」を参照してください。

## AI SERVO AF

撮影距離が連続的に変わる被写体の撮影に適しているモードです。シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます。動体予測機能\*でカメラに向かってくる、あるいは遠ざかる被写体にもピントが合います。露出はシャッターが切れる直前に決まります。

#### \*動体予測機能

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、あるいは遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

## AI SERVO AF時のAFフレームとAFモードの関係

AI SERVO AF	
自動選択AF	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに、ワイドAFフレームの中央で被写体をとらえる。</li> <li>・その後被写体をワイドAFフレーム内でとらえていれば動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる。</li> </ul>
視線入力AF	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視線サーボAFとなり、移動する被写体を視線（目）で追うだけで動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる（→50ページ）。</li> </ul>
手動選択AF	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択したAFフレームでのみ動体予測機能によりピントを合わせ続けることができる。</li> </ul>



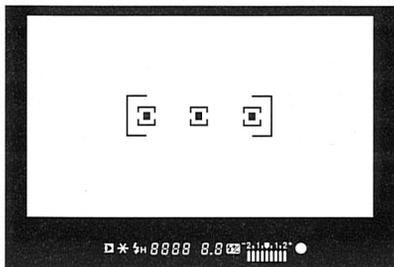
- ピントがあってもファインダー内の合焦マークは点灯せず電子音もなりません。
- ファインダー内の合焦マークが点滅するときはピントが合っていません。
- 1枚撮りおよび連続撮影の1コマ目はAFピント合わせに関係なくシャッターボタン全押しでいつでも撮影することができます。
- フォーカスロック撮影（→60ページ）はできません。

## AI FOCUS AF

ONE SHOT AFでとらえた被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAI SERVO AFに切り換わるモードです。

はじめにワイドAFフレームの中央で被写体をとらえれば、オートフォーカス中に被写体が中央のAFフレームを外れても周辺のAFフレームが被写体を確実にとらえている限りAI SERVO AFが機能します。

### 3点AFフレームについて



ファインダー内に設けられた3つのAFフレームが、広い視野でのオートフォーカスを可能にしました。ファインダー内の被写体の位置を気にすることなく自由な構図で撮影することができます。さらに、ピントの合ったAFフレームに連動した露出決定やストロボ調光露出が自動的に行われますので、被写体や構図に集中して撮影することができます。

3点AFフレームは次のような場合にその威力を発揮します。



● 構図に集中して撮影することができます。



● 中抜け写真を撮る失敗が少なくなります。



● ファインダー内を大きく左右に移動する被写体も的確に捉えます。

AFフレームの選択方法には、撮影状況に応じてカメラが自動的に選択する自動選択AFと、手動選択AFがあります。

**自動選択AF：** 撮影状況に応じカメラが自動的に選択したAFフレームでピント合わせが行われます。気軽なスナップ撮影などに適しています。

**手動選択AF：** 3つのAFフレームから、自分で選択した任意のAFフレームでピント合わせを行うことができます。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。

## AFフレームの選択

AFフレームとは、ピントを合わせる枠のことをいいます。ここではその選択の方法について説明しています。選択方法には以下の3つがあります。

自動選択によるAFフレームの選択：

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピント合わせを行います。

- メインスイッチAで使用できます。
- イメージゾーンとクリエイティブゾーンで使用できます。
- □(全自動)は自動選択AFがセットされており、これを変更することはできません。

手動選択によるAFフレームの選択：

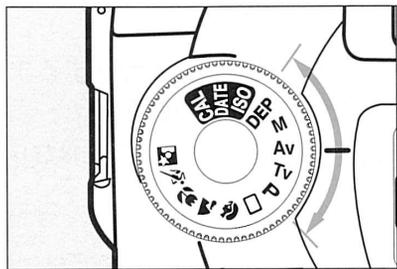
3つのAFフレームから任意のAFフレームを手動で選択します。

- メインスイッチAおよび▶で使用できます。
- クリエイティブゾーンで使用できます。

視線入力選択によるAFフレームの選択：

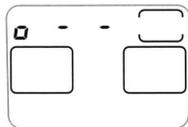
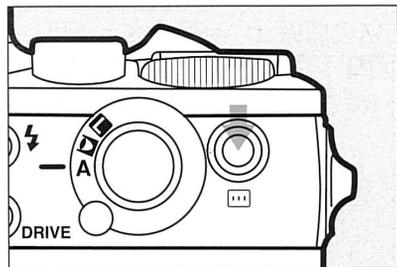
3つのAFフレームから任意のAFフレームを目で見て選択します。

- メインスイッチ▶で使用できます。
- □(全自動)以外で使用できます。

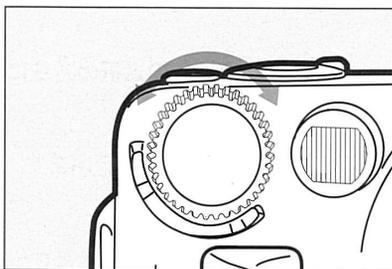


### 自動選択によるAFフレームの選択

- 1 メインスイッチをAにします。
- 2 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。
  - 全自動およびイメージゾーンでは3以降の動作を行わなくても自動選択に自動セットされます。
- 3 AFフレーム選択ボタンを押します。
  - 選択されているAFフレームがファインダー内点灯し、表示パネルでもAFフレーム表示が点灯します。

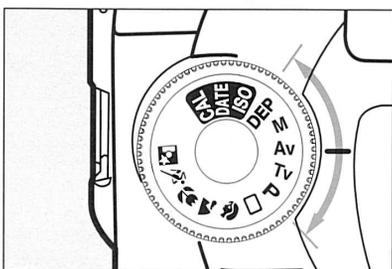


### Ⅲ 自在な応用撮影のための準備



4 ワイドAFフレームが点灯するまで電子ダイヤルを回します。

- AFフレーム選択ボタンから指をはなした場合は6秒以内に操作してください。
- シャッターボタンを半押しする、6秒経過する、AFフレーム選択ボタンを押すのいずれかで設定は完了します。



手動選択によるAFフレームの選択

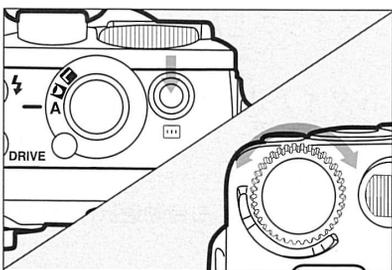
1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。

2 AFフレーム選択ボタンを押します。

- 選択されているAFフレームがファインダー内で点灯し、表示パネルでもAFフレーム表示が点灯します。

3 希望するAFフレームが点灯するまで電子ダイヤルを回します。

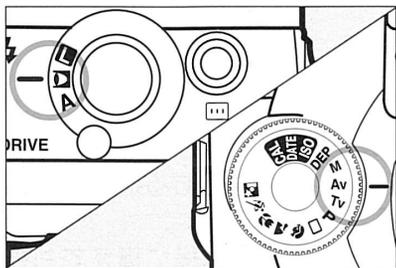
- AFフレーム選択ボタンから指をはなした場合は6秒以内に操作してください。



手動選択AFはイメージゾーンでは使えません。

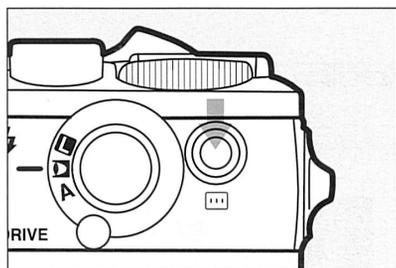
モードダイヤルのマークとAFフレーム選択方法の関係 (○=可、×=不可)

	全自動	ポート	風景	クローズアップ	スポーツ	夜景	P	Tv	Av	M	DEP
自動によるAFフレーム選択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
手動によるAFフレーム選択	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
視線入力によるAFフレーム選択	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

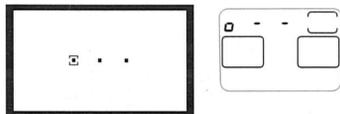


## 視線入力によるAFフレームの選択

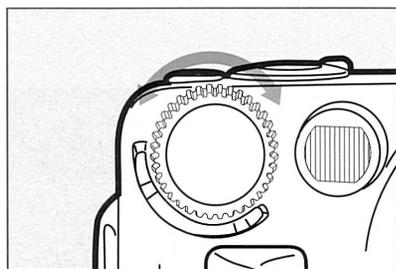
- 1 メインスイッチを  (視線入力ON) にします。
- 2 モードダイヤルを  (全自動) 以外にします。



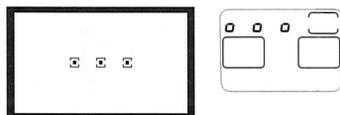
- 3 AFフレーム選択ボタンを押します。
  - 選択されているAFフレームがファインダー内で点灯し、表示パネルでもAFフレーム表示が点灯します。



- ファインダー内のAFフレームは、AFフレーム選択ボタンから指をはなしても6秒間は点灯しています。



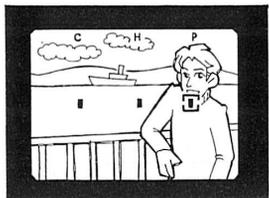
- 4 3つのAFフレームが点灯するまで同方向に電子ダイヤルを回します。



正確な視線入力AFを行うためには自分の視線をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。詳細は51ページ「3. 視線入力特性を合わせる」、55ページ「4. 視線入力AFで撮影する」を参照してください。

### Ⅲ 自在な応用撮影のための準備

#### 視線入力AFとは



視線入力AFは、ファインダー内の3つのAFフレームのうち、目がどのAFフレームを見ているのかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。

カメラを縦に構えても横に構えても視線入力AFを使用することができます。

視線入力AFは次のような場合にその威力を発揮します。

- 撮りたいものに瞬時にピントが合います。
- 瞬時にAFフレームを切り換えることができます。



- 動いている被写体をファインダー内で目で追うことができます (AI SERVO・動体予測機能作動時)。



# 3. 視線入力特性を合わせる

視線入力AFを使用するには、ファインダー内を見ている視線の動きをカメラが正確に検知できるようにするため、自分の目の視線特性をカメラに登録（キャリブレーション）する必要があります。

視線入力は  (全自動) 以外で使用できません。

## 自分の目の視線特性を登録する（キャリブレーション）

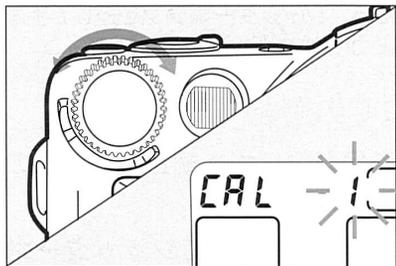
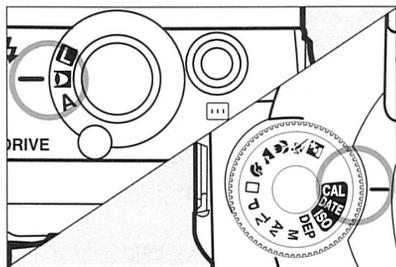
登録番号 1～3 までに 3 種類の異なった視線の状態を登録することができます。

例：1 = 裸眼、2 = コンタクトレンズまたは眼鏡装着、3 = あなた以外の人

- 視線の登録はファインダーをのぞいたら目を離さずに一連の操作を行ってください。
- カメラを縦位置に構えて使用する場合は、同一の登録番号に横位置と縦位置による視線登録を行ってください。

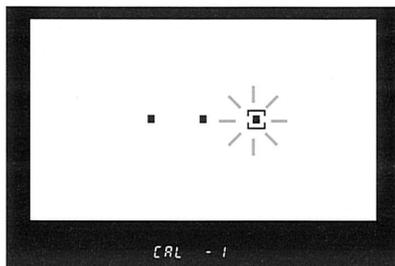


横位置のみの登録では縦位置での視線入力AFの精度が不十分な場合があるので縦位置でも登録を行ってください。



## 横位置での登録

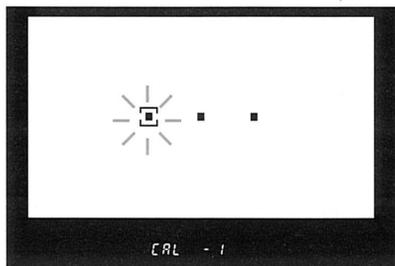
- 1 メインスイッチを  (視線入力ON) にします。
- 2 モードダイヤルを **CAL** (キャリブレーション) にします。
  - 表示パネルとファインダー内に「CAL -」と登録番号が表示されます。  
番号が点滅：視線登録が未登録の番号  
番号が点灯：すでに登録されている番号
  - プリントタイプが「H」のファインダー表示になります。
- 3 電子ダイヤルを回して点滅する登録番号を選択します。
  - 点滅している番号がない場合は54ページ「登録した視線の削除」を参照してください。



4 ファインダーをのぞきます。

5 点滅している右側のAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

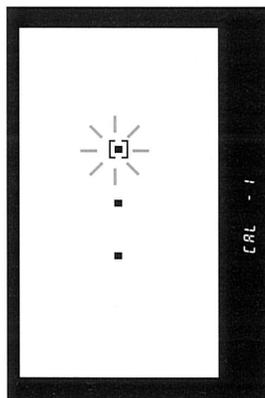
- シャッターボタンを押すとAFフレームが点灯にかわります。
- 「ピピッ」という電子音がなりAFフレームの点灯が終わるまでの1～2秒間、右側のAFフレームを注視してください。



6 シャッターボタンから指をはなすと左側のAFフレームが点滅を始めます。点滅している左側のAFフレームを注視しながら再度シャッターボタンを押します。1～2秒すると電子音が「ピピッ」と鳴り登録が完了します。



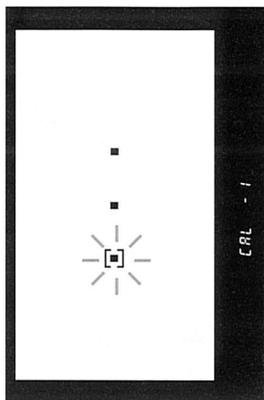
- 登録が完了すると、点滅していた登録番号が点灯に変わり、ファインダー内および表示パネルに「End -」と表示されます。
- 登録操作を中断している間に、ファインダー内で点灯しているAFフレームが消えたら、シャッターボタンを押して手順[4]からやり直してください。



#### 縦位置での登録

横位置での登録に引き続き縦位置での登録を行います。

7 カメラを縦に構えてシャッターボタンを押します。



End - 1

8 手順「4」～「6」の操作を行い、縦位置での視線を登録します。

- 横位置で登録した番号と同一の登録番号に縦位置の登録を行ってください。
- カメラを縦に構えるとき、グリップを上にしても下にしてもファインダー内では上のAFフレームから点滅を始めます。上側のAFフレーム、下側のAFフレームの順で登録を行ってください。

9 モードダイヤルを操作して撮影します。

- ファインダー内は視線登録操作前の状態に戻ります。



- 電子音が「ピピピピピ…」と断続して鳴り表示パネルの表示が点滅するときは、再度シャッターボタンを押して手順「1」からやり直してください。
- AFフレームが手動で選択されていても、視線の登録（キャリブレーション）が完了すると、AFフレームの選択は自動的に視線入力AFに切り換わります。

## 視線入力の学習機能

- このカメラの視線登録には登録した視線のデータを蓄積する機能があります。同一の登録番号に撮影条件（屋外、室内、昼、夜、それぞれ縦、横位置の条件）が変わる度に繰り返し視線を登録すると、より多くのデータを学習し視線入力の精度が向上します。
- 同一の登録番号に別の人が登録することはおやめください。視線入力AFの精度が悪くなります。別の人が使うときは登録番号を変えるか、その番号の登録内容を消去してから登録してください（→54ページ）。



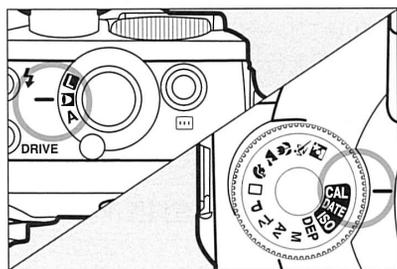
## 登録操作のコツ

- 肩の力をぬき、自然な形でカメラを構える。
- ファインダーの中心部をすなおにのぞく位置に目を置く。
- 点滅するAFフレームのみ注視せず、AFフレームごしに見える実際の被写体を見るようにする。
- めがね使用の場合は、めがねを正しく（鼻めがね不可）かける。

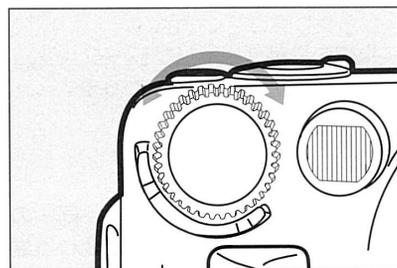
### Ⅲ 自在な応用撮影のための準備

#### 登録した視線の削除

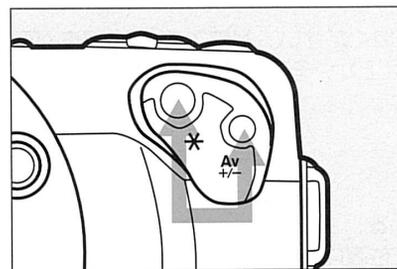
同じ登録番号に異なる視線の状態（例えば裸眼とコンタクトレンズ装着）を登録したり、複数の人の視線を登録すると視線入力AFの作動が不安定になったり、誤作動を起こすことがあります。そのようなときはすでに登録されている内容を消去して、改めて登録し直してください。



- 1 メインスイッチを **□** (視線入力ON) にします。
- 2 モードダイヤルを**CAL**にします。



- 3 電子ダイヤルを回して登録内容を消去したい登録番号（点灯）を選択します。

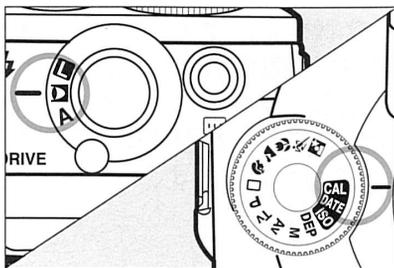


- 4 AEロックボタンと露出補正ボタンを同時に押します。
  - ファインダー内と表示パネルの登録番号が点滅し、登録内容が消去されたことを表示します。

# 4. 視線入力AFで撮影する

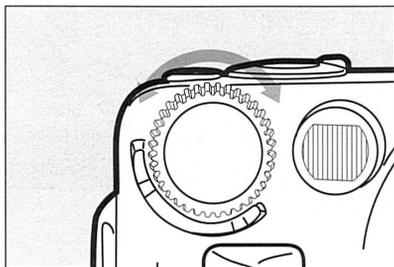
視線入力AFではファインダー内の任意のAFフレームを注視するだけで、そのAFフレームを選択することができます。

- 視線入力AFは□(全自動)以外の全てのモードで使用できます。□(全自動)では視線入力AFは使用できません。

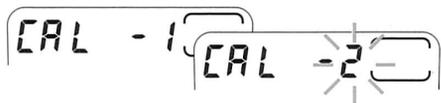


## ONE SHOT AF撮影

- 1 メインスイッチを□(視線入力ON)にします。
- 2 モードダイヤルを**CAL**にします。



- 3 電子ダイヤルを回して表示パネルに自分の視線登録番号を表示します。
  - 視線が登録されている番号は点灯し、未登録の番号は点滅します。



- 4 モードダイヤルで撮影モードを選択します。
- 5 ファインダーをのぞき希望するAFフレームを注視しながらシャッターボタンを半押しします。
  - 注視したAFフレームが点灯し、そのAFフレームでオートフォーカスします。



注視したAFフレームが選択できなかった場合  
ファインダー内の□(視線マーク)が点滅し、自動選択AF(→47ページ)  
でAFフレームが選択されてピント合わせが行われます。

### Ⅲ 自在な応用撮影のための準備

#### 視線サーボAF撮影

視線入力AFとAI SERVO AFを併用すると、移動する被写体を視線で追うだけで連続してピントを合わせ続けることができます。これを視線サーボAFといいます。

視線サーボAFを利用するとカメラを固定した状態で、ファインダー内を横方向に大きく移動する被写体にピントを合わせ続けることができます。視線入力AFでとらえた被写体が移動を始めたら、シャッターボタンの半押しを維持しながら、被写体に重なる次のAFフレームを目で追うだけで連続してその被写体にピントを合わせ続けることができます。

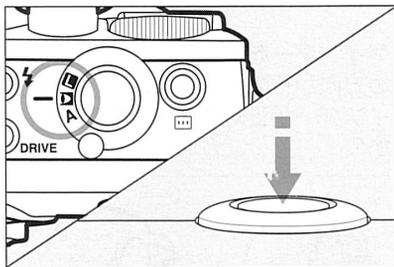
- 視線サーボAFで連続撮影することができます（→50ページ）。



# 5. 視線入力でプリントタイプを選択する

AFモードのONE SHOT AFで被写体にピントが合った後、視線入力ですべてのプリントタイプを選択することができます。

● □(全自動) と ⊗(スポーツ) ではできません。



1 メインスイッチが□(視線入力ON)であることを確認します。

2 被写体にピントを合わせ、その後もシャッターボタン半押しを維持します。

● ファインダー内にプリントタイプマークが点灯します。

3 希望するプリントタイプマークを注視します。

● ファインダーマスクが希望するタイプに変わります。

● シャッターボタンを半押しした状態で任意のプリントタイプマークを見つめるだけで、連続してプリントタイプを切り換えることもできます。



Cタイプ



Hタイプ



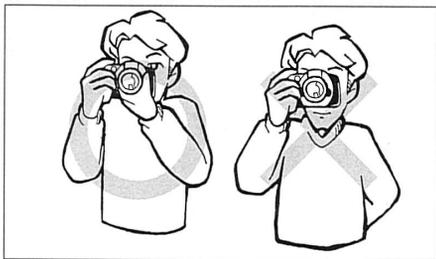
Pタイプ

## 視線入力の上手な使い方

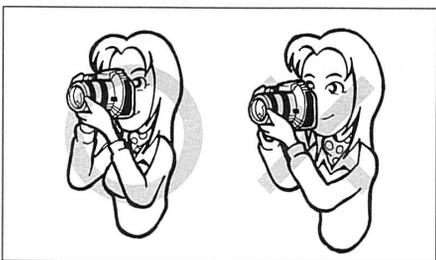
視線の登録がうまくいかなかったり、視線入力で希望するAFフレームがうまく選択できないときは次の点を確認してください。

### カメラを正しく構えていますか？

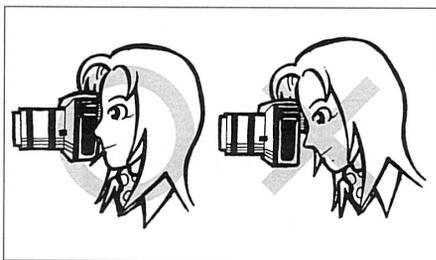
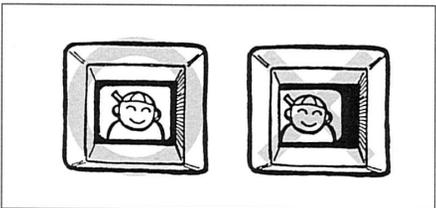
- カメラが動かないようにしっかり保持していますか？
- ファインダーを上、下、左あるいは右斜め方向からのぞくことなく、目とファインダーが正対するよう構えていますか？



- 目をアイカップに触れるまで近づけてファインダーをのぞいていますか？



- ファインダー内の四隅が完全に見えるよう、ファインダーの真ん中に目を位置させていますか？

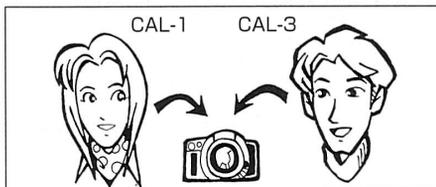


- カメラを斜めに構えていませんか？斜めに構えると誤差が生じてピントが合わないことがあります。



## 正しい状態で操作をしていますか？

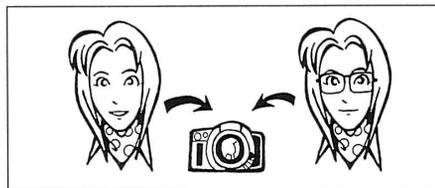
- カメラの使用者が複数のとき、使用者ごとに登録番号を変えていますか。  
複数の人が同じ番号に視線登録すると視線入力が誤動作を起こします。そのようなときはすでに登録されている視線を削除し、改めて登録操作してください。



- 視線登録時に目を細めたり、まばたきしたりしていませんか？



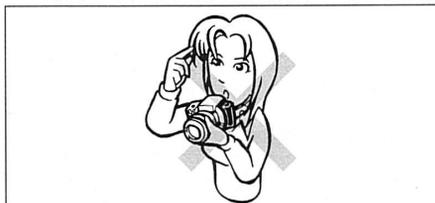
- AFフレームを見てからシャッターボタンを押していますか？
- 撮影時と同じ目の状態（眼鏡、コンタクトレンズ着用など）で視線を登録していますか？



- ファインダーにアイカップが着いていますか？
- 目に太陽光が直接当たっていませんか？  
屋外では目に太陽光が当たらないようにして登録の操作をしてください。



- 髪の毛が目にかかっていませんか？



- 眼鏡がずれて鼻眼鏡になっていませんか？  
その他ミラーレンズサングラスなど特殊なコーティングが施されている眼鏡では視線登録できないことがあります。



以上の点に留意しても視線入力できない場合は手動選択AFでご使用ください。  
(→48ページ)

# 6. AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる

3つのAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときには次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

- フォーカスロック撮影はAFモードがONE SHOT AFに設定されているときに有効です（→44ページ）。



- 1 希望するAFフレームを選択します。  
（→47ページ～49ページ）
- 2 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



- 3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変えます。
- 4 シャッターボタンを全押しして撮影します。

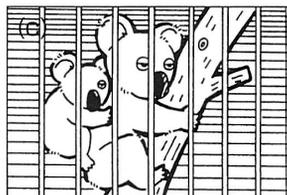
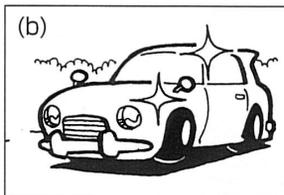
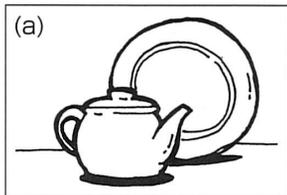


フォーカスロック撮影中に、ピントを合わせた被写体の明るさが変わると、その被写体が適正な露出にならないことがあります。測光方式については62ページ「IV 測光方式について」を参照してください。

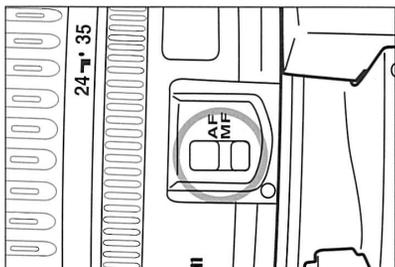
# 7. AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

このカメラのAFシステムはほとんどの被写体にピントを合わせることができる非常に精度の高いものです。しかし次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マークが点滅する）ことがあります。

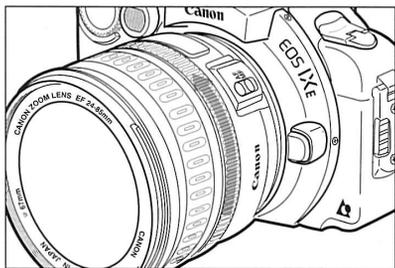
- (a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体。 例：青空、単色の平面など
- (b) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体 例：反射光の強い車のボディ
- (c) 遠くと近くに共存する被写体 例：おりの中の動物



これらの場合は、被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロックし、構図を決めて撮影するか、次の手順で手動でピントを合わせてください。



1 レンズのフォーカスモードスイッチをMF（あるいはM）にします。



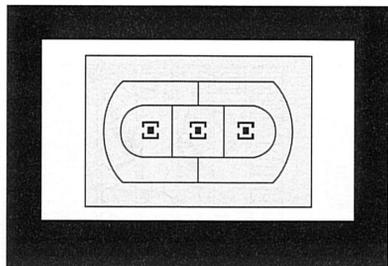
2 ファインダー内の被写体のがはっきり見えるまでレンズの手動フォーカスリングを回します。



AFからMF（あるいはM）に切り換えたときは、被写体にピントが合うとピントを合わせたAFフレームと合焦マーク（●）が点灯します。

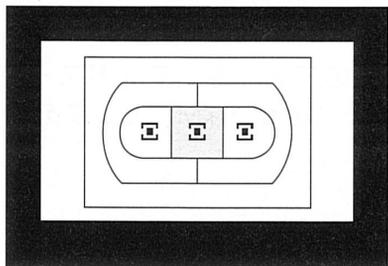
# IV 測光方式について

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3種があります。評価測光が標準の測光方式となっています。部分測光はAEロック撮影時に、中央部重点平均測光は、M・マニュアル露出時に自動セットされます。



## 評価測光

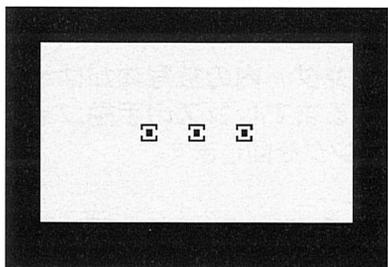
逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内の主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光などの要素を3つのAFフレームに連動してカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出値にします。



## 部分測光

ファインダー中央部の約6.5%の範囲を測光します。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。

- 部分測光の測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



## 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。



- ONE SHOT AFおよびAI FOCUS AF (AI SERVO AF時を除く) の場合、シャッターボタンを半押しして被写体にピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。
- 測光方式を任意に選択・変更することはできません。

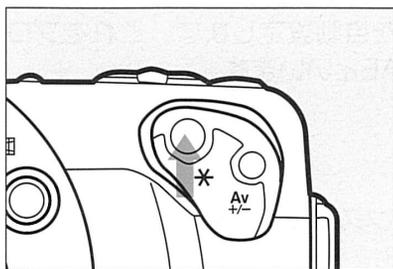
## 部分測光・AEロックで撮る

クリエイティブゾーンでは、露出とピントを別々に決めることができます。露出値を決めた後で構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。メインとなる被写体とその背景とのコントラストが強い場合や逆光下での撮影などに有効です。

- フィルム巻き上げモードが「1枚撮り」でも「連続撮影」でもAEロック撮影できます。



- 1 露出を合わせたい被写体をファインダー中央においてピントを合わせます。



- 2 露出を合わせた部分をファインダーの中央に置いてAEロックボタン(\*)を押します。

- ファインダー内にAEロック表示(\*)が表示され、露出値が固定(AEロック)されます。AEロックボタンから指を離しても4秒間は表示されています。

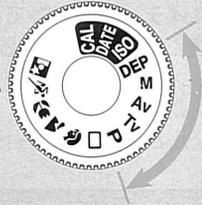


- 3 構図を決め直し、撮影します。
  - AEロックボタンを押し直すたびにそのときの露出値をAEロックします
  - AEロック表示(\*)が表示されてから4秒間経過するかモードダイヤルを操作するとAEロックは解除されます。

# V 撮影目的に合わせた自在な応用撮影

クリエイティブゾーンではシャッター速度、絞り、AFフレームを選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。ここではP、Tv、Av、M、DEPそれぞれの効果的な使い方を説明します。

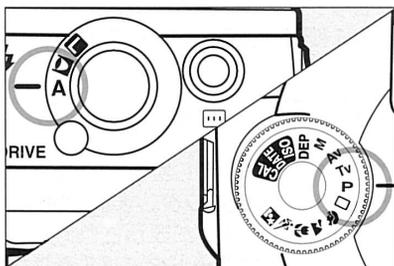
- 各操作の前に、まずはメインスイッチをAにしてください。



## 1. PプログラムAEで撮る



□(全自動)と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。



- 1 メインスイッチをAにします。
- 2 モードダイアルをPにします。



- 3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。

### 4 シャッター速度と絞り数値を確認して撮影します。

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。
- 点滅した場合は98ページの露出警告表示一覧をご覧ください。



### P (プログラムAE) と□全自動モードの違い

Pと□で、自動的に決まるシャッター速度と絞りの組み合わせは、同じですが下記項目の操作の可否 (○：可能、×：不可能) が異なります。

機能	P	□全自動
視線入力AF	○	×
連続撮影	○	×
プログラムシフト	○	×
露出補正	○	×
AEB	○	×
部分測光/AEロック	○	×
AFフレームの手動選択	○	×
内蔵ストロボの強制発光	○	×
ストロボの調光補正	○	×
EXストロボ使用・ハイスピードシンクロ	○	×
EXストロボ使用・FEロック	○	×

### プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ (プログラム) を、同じ露出のまま自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が出るまで電子ダイヤルを回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- 内蔵ストロボやスピードライトを使用するとプログラムシフトはできません。

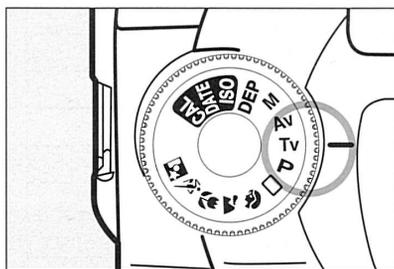
## 2. Tvシャッター速度を決めて撮る



早いシャッター速度 (1/500秒)



遅いシャッター速度 (1/30秒)



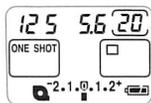
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出となる絞りを自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

シャッター速度の設定は電子ダイヤルで行います。

1 モードダイヤルをTvにします。

2 電子ダイヤルを回して希望するシャッター速度を設定します。



3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。

4 絞り数値を確認して撮影します。

- 絞り数値が点灯していれば適正露出です。
- シャッター速度が（約）[1/使用レンズの焦点距離] 以下になると手ぶれが起きやすくなりますのでご注意ください。



シャッター速度を1/15秒に設定すると、テレビ画面に映っているものをきれいに写すことができます。

- テレビ画面を写すときはカメラが動かないよう三脚を利用してください。



使用しているレンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅しているときは被写体が暗すぎる場合で露出アンダー（不足）になります。この場合は、点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。



使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅しているときは被写体が明るすぎる場合で露出オーバー（過多）になります。この場合は、点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段毎に設定することができます。4000から2までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また0"7は0.7秒を表し、15"は15秒を表しています。

4000 3000 2000 1500 1000 750 500 350 250  
180 125 90 60 45 30 20 15 10 8 6 4 3 2  
0"7 1" 1"5 2" 3" 4" 6" 8" 10" 15" 20" 30"

### 3. Av絞り数値を決めて撮る



小さい絞り数値 (F2.8)

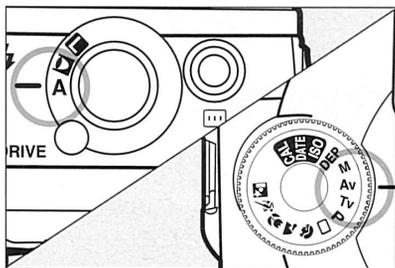


大きい絞り数値 (F8.0)

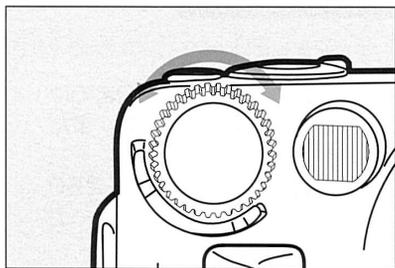
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出となるシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくする（開く）と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広がります。

絞り数値の設定は電子ダイヤルで行います。



1 モードダイヤルをAvにします。



2 電子ダイヤルを回して希望する絞り数値を設定します。

## V 撮影目的に合わせた自在な応用撮影



3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。

4 シャッター速度を確認して撮影します。

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



シャッター速度の30"が点滅しているときは被写体が暗すぎる（低輝度）場合で露出アンダーになります。この場合は、点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞り数値を小さくしてください。



シャッター速度の4000が点滅しているときは被写体が明るすぎる（高輝度）場合で露出オーバーになります。この場合は、点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞り数値を大きくしてください。



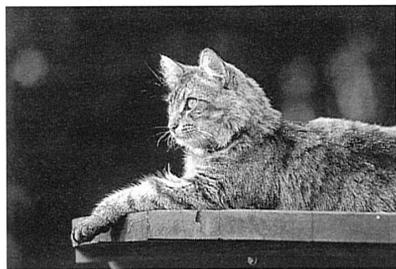
### 絞り数値の表示

絞り数値は1/2段毎に設定することができます。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

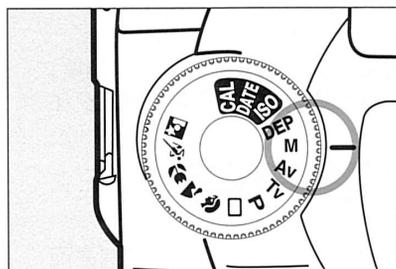
1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7  
8.0 9.5 11 13 16 19 22 27 32 38 45 54 64

- カメラにレンズがついていないときは「00」を表示します。

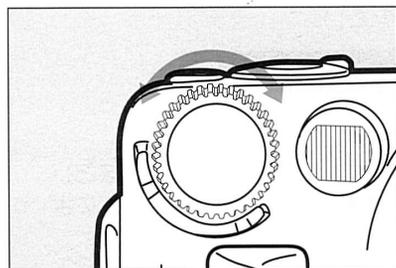
## 4. M自由に露出を決めて撮る



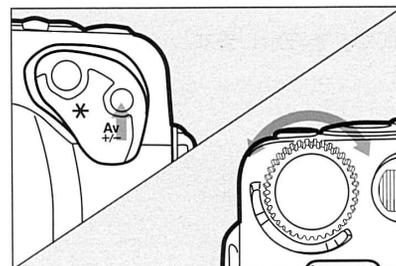
カメラまかせでなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて、表現を工夫した写真を撮ることができます。シャッター速度と絞り数値の適正な組み合わせは、露出レベルマークの位置で確認します。



1 モードダイヤルをMにします。

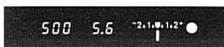
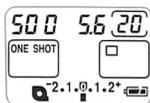


2 表示パネルまたはファインダー内表示を見ながら、電子ダイヤルでシャッター速度を設定します。



3 マニュアル絞り数値設定ボタンを押しながら電子ダイヤルで絞り数値を設定します。

## V 撮影目的に合わせた自在な応用撮影



4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルおよびファインダー内の露出レベルマークで露出を確認します。

5 露出レベルマークに従って露出を調整します。

適正露出： 露出を決めるときの基準です。

露出オーバー： シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくして調整します。

露出アンダー： シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくして調整します。

- 露出レベルマークが+2あるいは-2で点滅しているときは、露出が+2あるいは-2を越えていることを示しています。

6 撮影します。

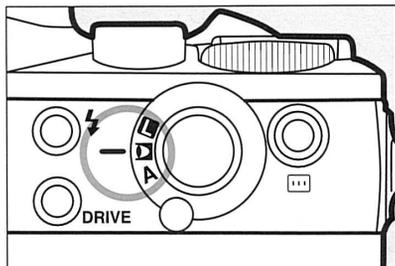
適正露出	-2.1.0.1.2+
露出オーバー	-2.1.0.1.2+
露出アンダー	-2.1.0.1.2+

## 5. DEPピントの合う範囲を決めて撮る

前後に並んだ人々の記念写真や風景写真を撮るとき、鮮明に写したい範囲を指定することができます。手前から奥までを鮮明に写すのに最適なピント位置とそのために必要な絞り数値、シャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AE（DEP）といいます。視線入力AFで行う方法、AFフレームを手動で選択して行う方法があります。

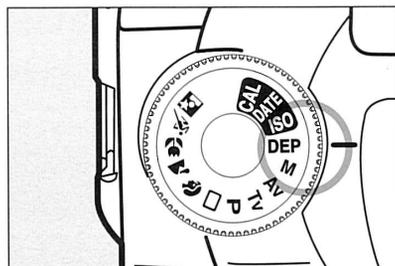
### 視線入力AFによる深度優先AE撮影

構図を大きく変えずに深度優先AE撮影するときは視線入力AFを併用します。より簡単な深度優先AE撮影が可能です。

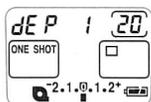


1 メインスイッチを  (視線入力ON) にします。

- 自分の視線登録番号が選択されていることを確認します (→51ページ)。

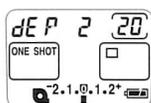


2 モードダイヤルをDEPにします。



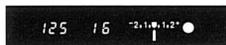
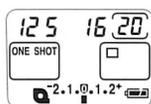
3 手前の被写体(1)に重なっているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

- 注視したAFフレームが点灯します。
- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルにdEP 1と表示されます。



4 奥の被写体(2)に重なっているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

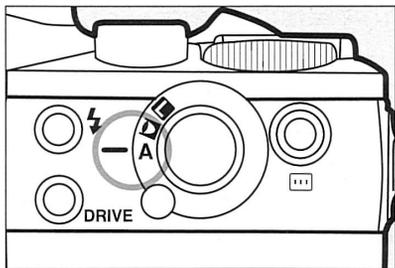
- 注視したAFフレームが点灯します。
- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルにdEP 2と表示されます。



5 もう一度シャッターボタンを押して撮影します。

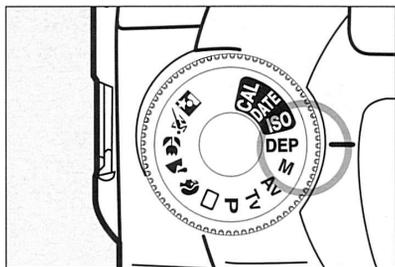
- 露出はシャッターボタン半押ししたときに注視するAFフレームを中心にして決まります。もしそのときAFフレームを注視していなかった場合は中央のAFフレームで評価測光して露出を決定します。

## V 撮影目的に合わせた自在な応用撮影

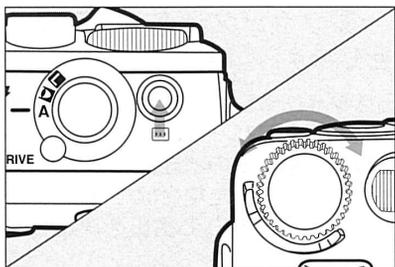


手動で選択したAFフレームによる深度優先AE撮影

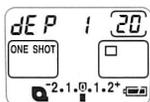
1 メインスイッチをAにします。



2 モードダイヤルをDEPにします。

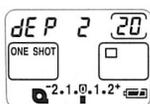


3 AFフレームを選択します (→47ページ)。



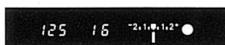
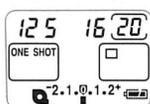
4 選択したAFフレームを手前の被写体の1点目(1)に合わせ、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルにdEP 1と表示されます。



5 同じAFフレームを奥の被写体の2点目(2)に合わせ、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内に合焦マークが点灯し、ファインダー内と表示パネルにdEP 2と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



6 構図を決めてシャッターボタンを半押し、シャッター速度と絞り数値を確認します。

- シャッターボタンから指を離すと表示はdEPと絞り数値になります。
- 露出はシャッターが切れる直前に決まります。

7 さらにシャッターボタンを全押しして撮影します。



自動選択AFフレームによる深度優先AE撮影は、ワイドフレームの中央部によるピント合わせになります。基本的な操作手順や注意事項は「手動で選択したAFフレームによる深度優先AE撮影」と同じです。

## V 撮影目的に合わせた自在な応用撮影



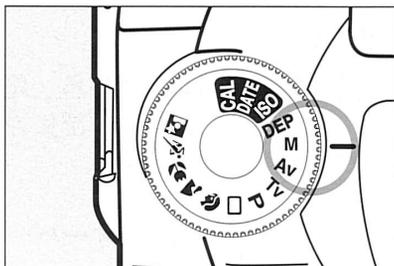
- 絞り数値が点滅するときは露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れて手順「4」～「6」をやり直してください。
- シャッター速度の「30"」と使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅するときは露出アンダーで深度優先AE撮影できません。
- シャッター速度の「4000」と使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅するときは露出オーバーになります。レンズを通る光の量を減らすNDフィルター（別売）をつけて撮影してください。
- ズームレンズの場合は、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
- 深度優先AE撮影操作中にAFフレーム選択ボタンによる「AFフレームの選択」（→47ページ）操作を行わないでください。途中でAFフレームを変更すると、設定された深度優先AE撮影データが解除されてしまいます。その場合は、変更したAFフレームで最初から深度優先AE撮影してください。
- プリントタイプを選択してから深度優先AE撮影してください。深度優先AE撮影操作中に「プリントタイプの切り換え」（→36ページ）操作を行うときは、シャッターボタンを押している間に行ってください。シャッターボタンから指を離してプリントタイプを変更すると、設定された深度優先AE撮影データが解除されてしまいます。
- レンズのフォーカスモードスイッチがMF（あるいはM）になっていると深度優先AE撮影できません。自動的にプログラムモードとなります。
- ストロボを併用した深度優先AE撮影はできません。併用した場合はP（プログラムAE）のストロボ撮影と同じ結果になります。
- 遅いシャッター速度になった場合は、三脚の使用をおすすめします。
- 深度優先AE撮影を途中で解除するときはモードダイヤルをDEP以外にしてください。



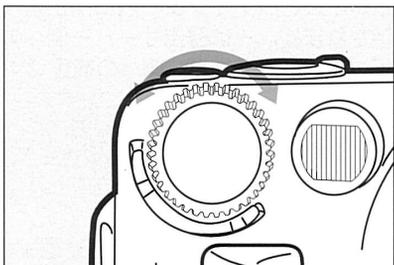
- 被写界深度を深くしたいときは広角レンズをお使いになることをおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを同一の被写体の同じ部分で行うと、ピントが合う範囲が浅くなります。この方法を応用すると、人物撮影などで人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることができます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

## 6. バルブ（長時間露光）撮影

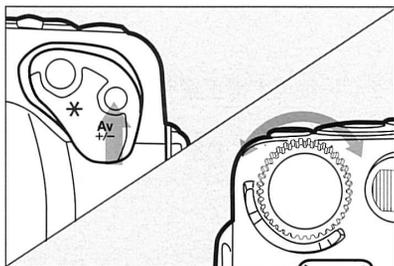
シャッターボタンを押している間シャッターは開いたままになり、シャッターボタンから指を離すとシャッターは閉じます。これをバルブ撮影といいます。リモートスイッチRS-60E3（別売）を併用すればシャッターボタンを押し続ける必要はありません。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露出が必要なときに設定します。



1 モードダイヤルをMにします。



2 電子ダイヤルでシャッター速度をbulbにします（30"の次がbulbです）。



3 マニュアル絞り数値設定ボタンを押しながら電子ダイヤルで絞り数値を設定します。

4 撮影します。

- バルブ撮影中は表示パネルのbulbが点滅します。
- バルブ撮影中のファインダー内表示は消えます。

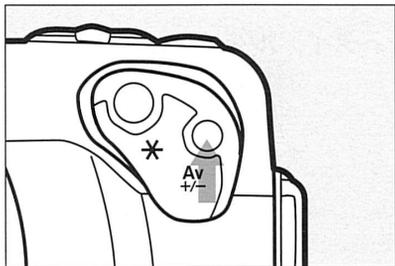


バルブ撮影では、手ぶれを防ぐため三脚を使用することをおすすめします。

# 7. 露出補正の方法

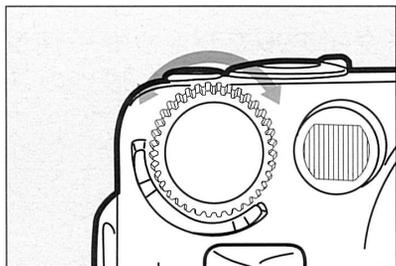
## 露出補正

カメラが決めた標準的な露出を、意図的に変えることを露出補正といいます。撮影された写真を明るめにしたり暗めにしたときに利用します。補正は+2.0段から-2.0段の範囲で1/2段毎に行うことができます。



- 1 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。
- 2 露出補正ボタンを押しながら、電子ダイヤルを回し露出表示部に意図する補正量を設定します。

アンダー  $-2.1.0.1.2^+$  オーバー



- 表示パネルとファインダー内に補正量が表示されます。+は露出オーバー側への補正、-は露出アンダー側への補正です。

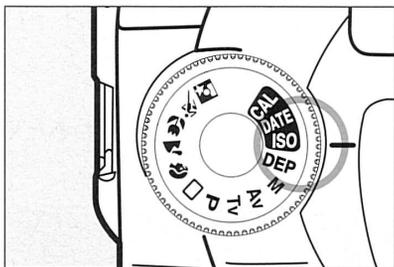
- 3 撮影します。



- 露出補正を解除するときは手順「1」「2」に従って補正量を「0」に戻します。
- 設定した補正量はメインスイッチを  (ロック) にしても解除されません。

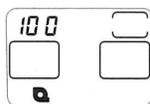
## フィルム感度を手動で設定する

自動セットされるフィルム感度（ISO）を、意図的に変更する場合には次のようにして手動で設定します。



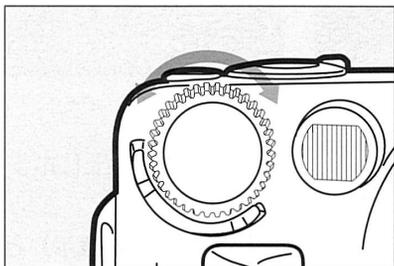
1 モードダイヤルをISOにします。

- 表示パネルに  (カートリッジ) とそれまで設定されていたISO感度数値が表示されます。



2 電子ダイヤルを回して、表示パネルに希望する感度を表示します。

- 表示パネルの数値が点滅します。



3 モードダイヤルを戻します。



- 全てのコマ（カートリッジまるごと）を意図的に露出オーバーにしたり、露出アンダーにする場合に利用します。
- 設定できる感度は、ISO6～8000です。



- フィルム感度の変更はカートリッジをカメラに装填してから行ってください。
- 変更したフィルム感度は次のカートリッジを装填すると自動的に解除されます。

# 8. AEB自動露出ずらしで撮る

設定した露出補正量の幅に従ってカメラが自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing)といいます。適正露出を中心に1/2段ステップで+2段から-2段の範囲でAEB撮影の補正量を設定することができます。設定してあるフィルム巻き上げモードで適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影します。

- AEB撮影はシリーズシーンが自動記録されます。
- ストロボを併用するとAEBボタンが調光補正ボタン(→18ページ)に変わるためAEB撮影の設定はできません。



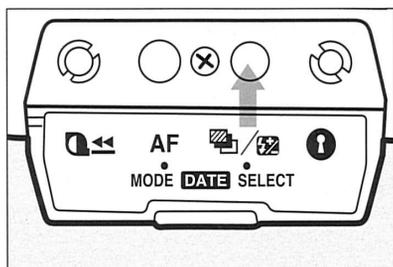
適正露出



露出アンダー (-0.5)



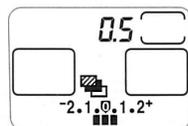
露出オーバー (+0.5)



1 スイッチカバーを開け、AEBボタンを押します。

- 表示パネルに  (AEB撮影表示) と「00」が表示されます。

2 電子ダイヤルを回して希望する補正量(ずらし量)を設定します。



- 表示パネルに補正量が表示されます。例えば「0.5」を設定すると適正/露出アンダー(-0.5)/露出オーバー(+0.5)の順で露出を変えます。

-2.1.0.1.2\*: ±1段のAEBをセットした状態

-2.1.0.1.2\*: -1段の露出補正をした状態

-2.1.0.1.2\*: -1.5段の露出補正をした状態

-2.1.0.1.2\*: -2段の露出補正をした状態

- AEBセットのとき、露出表示の範囲を越える露出補正を行うと、表示は図のようになりますが、AEB撮影と露出補正は正常に作動します。

3 設定してあるフィルム巻き上げモード（→43ページ）に従って撮影します。

- 表示パネルとファインダーの露出値は撮影順に補正された値を表示します。

適正露出…………… -2.1.0.1.2\*

露出アンダー…… -2.1.0.1.2\*

露出オーバー…… -2.1.0.1.2\*



- 3コマの撮影が終わるまで表示パネルのAEB（AEB撮影表示）は点滅しています。
- AEB撮影は自動的には解除されません。解除するときは補正量を「0.0」に戻します。
- 連続撮影でシャッターボタンを押し続けると3コマ連続して撮影されますが、露出補正量の表示はされません。
- セルフタイマーを併用したときは10秒後に自動的に3コマ連続撮影されます。

### シリーズシーンについて

従来の135(35mm)ネガフィルムを使用した場合は、撮影時に露出補正を行っても、プリント時に自動補正プリント処理されるため、撮影時の露出補正が正しく再現されません。

しかし新システムに対応したこのカメラは、以下にあげた条件で撮影した一連のシーンは、自動的に磁気記録されたIX情報により同一条件でプリントされるため、撮影時の露出条件がプリントに正しく再現されます。この機能をシリーズシーンといいます。

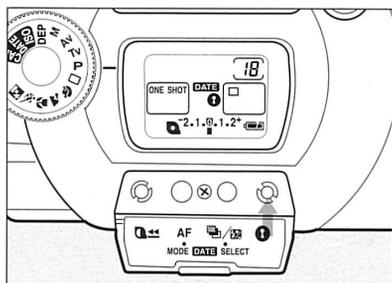
(1) AEB撮影を行ったとき。

(2) AEロック状態で連続撮影（1枚撮りによる繰り返し撮影も含む）を行ったとき。

- プリント条件はラボによって異なる場合があります。

# 9. 全コマ同一条件プリントの指定と解除

撮影したフィルム全コマを同一条件でプリント指定する機能です。EOS IX Eで指定すると、撮影時の微妙な露出コントロールをそのままプリントに反映した、リバーサルフィルム感覚の結果を得ることができます。概念的には、コマ毎のプリント補正を行わないくべタ焼き（全コマ同一条件プリント）>指定の機能です。



- 1 カートリッジを装填します。
- 2 スイッチカバーを開け ① ボタンを押します。
  - 表示パネルに ① が点灯します。
  - ① ボタンを押す毎に設定・解除を繰り返します。
- 3 撮影します。
- 4 規定枚数の撮影が終わると、自動的にフィルムの巻き戻しが行われます。
  - 全コマ同一条件プリントのIX情報記録は、① マークが表示された状態でフィルム巻き戻し（途中巻き戻しも含む）が行われると自動的に行われます。
  - 撮影済フィルムを取り出すと、全コマ同一条件プリント指定は自動解除します。

## 解除の方法

- ① ボタンを押して表示パネルの ① マークを消します。



- 最初に全コマ同一条件プリント指定を行って撮影をつづけたあと、撮影終了直前に解除したい場合は、フィルム巻き戻しを行なう前に、① マークの表示を消してください。
- 撮影途中や、撮影終了直前に、全コマ同一条件プリントの指定を行なうこともできます。
- 撮影途中のカートリッジを装填し、全コマ同一条件プリント指定を行った場合、再装填前に撮影済のシーンも同一条件プリント指定になります。
- より良いプリントを得るために、全コマ同一条件プリントを指定したカートリッジをお店に出すときは全コマ同一条件プリントを指定した旨をお伝えくださるようお勧めします。



- 全コマ同一条件プリントを設定したまま途中巻き戻しを行うと、カートリッジの使用状態マークは撮影済みとなり、再装填して撮影を続けることができなくなります。
- プリント条件はラボによって異なる場合があります。

# VI ストロボを使って撮る

クリエイティブゾーンでは、明るさに関係なく、必要なときにいつでもストロボ撮影ができます。内蔵ストロボを利用する場合も、EOS専用の外付けストロボを利用する場合も、基本操作は通常のAE撮影と同じです。

- 各操作の前に、先ずはメインスイッチをAにしてください。

クリエイティブゾーンのストロボ撮影では、通常のAE撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度(最高同調速度以下)の設定を行うことができます。ストロボ光の露出は、常にその時の絞り値を基準にした、AFフレーム連動・主被写体重視の3分割TTL調光で自動制御されます。

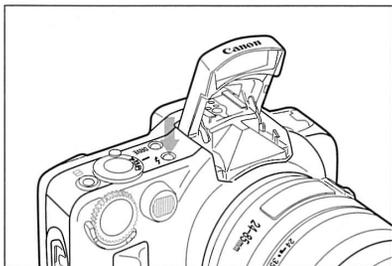
- カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときは**P**を選択します。  
シャッター速度と絞り数値は、**□**全自動と同様、自動的にきまります。主被写体重視のストロボ撮影となります。
- 任意の絞り数値を設定したいときは、**Av**を選択します。  
暗い場所では、主被写体も背景も適正露出の自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体は設定した絞り値基準の自動調光で、また背景は絞り優先AE・カメラの測光で決まるシャッター速度との組み合わせで適正露出になります。
  - 自動スローシンクロ撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- 任意のシャッター速度を設定したいときは、**Tv**を選択します。  
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出になる絞り値が自動セットされ、その絞り値基準の自動調光撮影となります。
  - 1/200秒よりも高速のシャッター速度を設定した場合は、自動的に1/200秒に再設定された撮影となります。
- 絞り値もシャッター速度も任意に設定したいときは**M**を選択します。  
背景の露出はマニュアル露出で決まります。主被写体は、マニュアルセットした絞り値基準の自動調光で適正露出となります。



- ストロボの調光補正をおこなうこともできます。(→91ページ参照)
- DEPのストロボ撮影は、**P**によるストロボ撮影と同じ結果になります。

# 1. 内蔵ストロボを利用した撮影

- 1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。
- 2 ストロボボタンを押します。
  - 押すとストロボが上がります。
  - ストロボを収納するときはストロボを手で押し下げます。
- 3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。
- 4 ファインダー内に  が点灯しているのを確認して撮影します。



- 遠距離側連動距離については111ページを参照してください。
- 1m以内でストロボ撮影すると画面の一部が欠け(ケラレ)て暗い写真になります。ストロボ撮影は被写体から1m以上離れてください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- 内蔵ストロボと外付けストロボを一緒に使用することはできません。
- 次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がけられることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときはEOS専用外付けストロボをおすすめします。  
EF17 - 35mm F2.8L USM、EF28-70mm F2.8L USMなどの大口径レンズ  
EF300mm F2.8L USM、EF600mm F4L USMなどの超望遠レンズ
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、焦点距離22mmまでです。22mm未満の広角レンズを使用すると、できあがった写真の周囲が暗くなります。

## 2. EXシリーズスピードライトを利用したE-TTL自動調光撮影

EOS専用外付けストロボ・キヤノンEXシリーズスピードライト380EXや220EXを装着すると、内蔵ストロボ使用とおなじ感覚の簡単操作で、AFフレーム連動・E-TTL自動調光撮影ができます。大光量が必要な集合写真や、光を演出したポートレート撮影におすすめます。

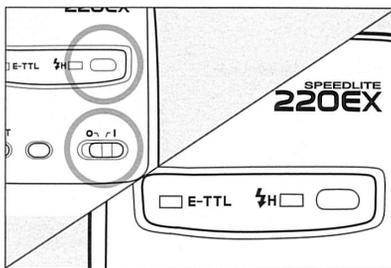
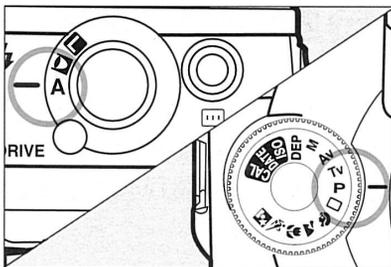
### E-TTL自動調光システムの特長

- (1) AFフレームに連動した、E-TTL調光(プリ発光・記憶式評価調光)により、ピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。
- (2) 日中シンクロ撮影から室内撮影まで、きわめて自然なストロボ撮影結果が、カメラまかせのオートで得られます。
- (3) 暗いところでカメラをAvモードにすると、自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体も背景も共に適正露出の雰囲気の良い撮影結果がカメラまかせで得られます。
- (4) FE(Flash Exposure)ロック機能により、任意のところを適正露出にするストロボ光のAEロック撮影ができます。
- (5) 30秒から高速1/4000秒までの、すべてのシャッター速度に同調発光するハイスピードシンクロ(FP発光)撮影ができます。
- (6) クリエイティブゾーンでは、通常のAE撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度(最高同調速度以下)の設定を行うことができます。
- (7) 多灯アクセサリーを併用することにより、AFフレーム連動・TTL自動調光による多灯ストロボ撮影を、オートで行うことができます。



- AF撮影のストロボ露出は、常にその時の絞り値を基準にした、AFフレーム連動主被写体重視のE-TTL調光で自動制御されます。
- 全自動、イメージゾーンでは、常時発光のE-TTL自動調光撮影となります。
- カメラ本体の赤目緩和機能は、EOS専用外付けストロボ装着時にも働きます。

## VI ストロボを使って撮る



### 通常発光撮影

1 カメラのモードダイヤルを**DEP**を除く撮影モードにします。

- **DEP**（深度優光AE）でストロボ撮影すると**P**（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ結果になります。

2 220EXのメインスイッチを入れます。

- ストロボのハイスピードシンクロ（FP発光）ランプが消灯していることを確認してください。点灯している場合はハイスピードシンクロ（FP発光）セットボタンを押してランプを消してください。

3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

4 カメラのファインダー内の⚡の点灯とシャッター速度、絞り数値を確認します。

5 シャッターボタンを全押しして撮影します。



FP発光作例



通常発光作例

## ハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影

スピードライトのハイスピードシンクロ (FP発光) ランプを点灯させておくと、シャッター速度が1/200秒より高速側に設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影が可能となります。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内  右にHが表示され、ハイスピードシンクロであることを示します。

ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影で効果を発揮します。

- (1) 日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて背景をぼかす。
- (2) キャッチライトを入れる。
- (3) シャドー部に補助光を与える。

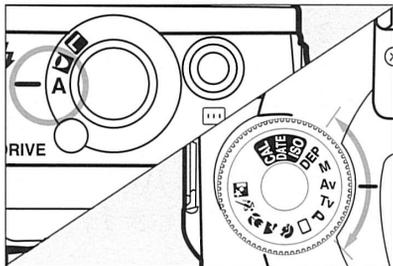


- ハイスピードシンクロはクリエイティブゾーンに限り撮影可能です。イメージゾーンでは通常ストロボ撮影となります。
- ハイスピードシンクロはストロボのG.N. (ガイドナンバー) が下がります。自然光の光量が十分でないときのハイスピードシンクロ撮影は露出がアンダーになりますのでご注意ください。

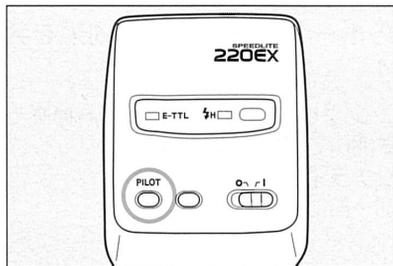
### FEロック撮影

FEロック撮影はファインダー上の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

FEロック撮影はクリエイティブゾーンにおいてのみ機能し、AEロックボタンがFE (Flash Exposure)ロックボタンとして機能します。



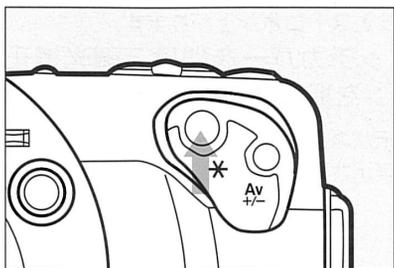
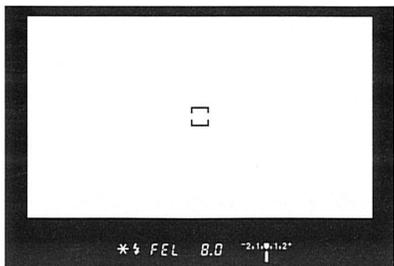
- 1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。



- 2 スピードライトのパイロットランプの点灯を確認します。

- 発光モードは、通常発光、ハイスピードシンクロのどちらでもかまいません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行うことができます。

- 3 シャッターボタンを半押しし、露出を合わせたい被写体にピントを合わせ、そのままシャッターボタン半押しを維持します。



4 ファインダーの中央部を被写体に合わせてFEロックボタンを押します。

- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ファインダー内にシャッタースピード表示が一瞬FELになります。



- ファインダー内の ⚡ が点滅した場合は主被写体がストロボ調光連動距離範囲外にあり、露出不足になります。FEロックボタンを押したときに ⚡ が点滅しない距離まで近づいて撮影してください。
- FEロックボタンから指を離しても16秒間は適正な露光量が記憶されます。

5 シャッターボタンを全押しして撮影します。



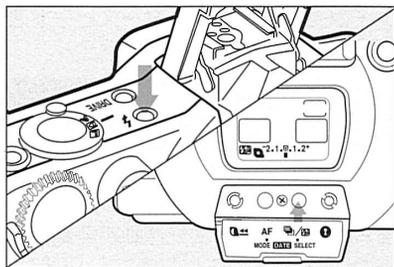
- 外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- イメージゾーンで外付けストロボを使用すると、全てP（プログラムAE）と同じ組み合わせとなり常時発光します。

EXシリーズストロボ以外のEOS専用スピードライトとの組み合わせ  
このカメラとEOS専用スピードライト（540EZ、430EZ、420EZ、300EZなど、多灯アクセサリも含む）を組み合わせると、3分割A-TTL/TTL自動調光で通常の自動撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影することができます。

# 3. ストロボ撮影の調光補正

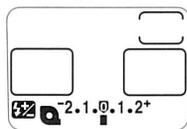
内蔵ストロボおよびEOS専用外付けストロボの自動露出レベルを補正することができます。補正量は1/2段ステップで+2段から-2段の範囲です。

- ストロボ調光補正ボタン（兼AEBボタン）による調光補正はクリエイティブゾーンでのストロボ撮影時のみ有効です。



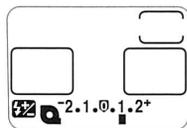
- 1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにします。
- 2 ストロボボタンを押します。
  - 押すとストロボが上がります。
- 3 スイッチカバーを開け、調光補正ボタンを押します。

- 表示パネルに  (ストロボ調光補正表示) が表示されます。



- 4 電子ダイヤルを回して希望する補正量を設定します。

- 表示パネルに補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



- 5 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルに  (ストロボ調光補正表示) が表示されたままになります。

- 6 調光補正を解除するときには手順「2」から「4」に従って補正量を「0」に戻します。



ストロボ調光補正と露出補正を併用することにより、主被写体と背景の露出を独立して任意にコントロールできます。



- 設定した調光補正量はメインスイッチを **■**(ロック) をにしても解除されません。
- 調光補正ボタンを押すと設定されている調光露出量を確認することができます。

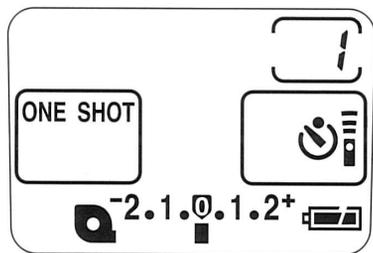
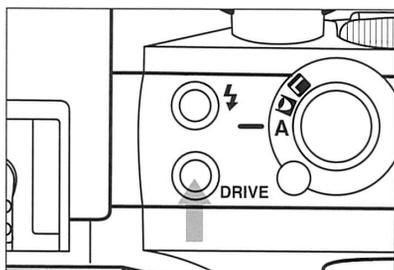
### ストロボ調光補正できるスピードライト

全てのEOS専用外付けストロボを装着した場合、カメラで調光補正することができます。ただし、540EZと430EZはストロボ単体で調光補正できます。この2機種はカメラとスピードライトの両方で調光補正した場合、スピードライト側の調光補正が優先します。

# VII セルフタイマーやリモートコントローラー（別売）を利用して撮る

セルフタイマーやリモートコントローラーRC-1（別売）、リモートスイッチRS-60E3（別売）は自分自身を含めた記念撮影、マクロ撮影、バルブ撮影、複写などに利用すると便利です。イメージゾーンでもクリエィティブゾーンでも使えます。

- セルフタイマーやリモコンを利用して撮影するときは三脚をお使いください。



## セルフタイマーを利用して撮る

- 1 モードダイヤルで撮影モードを選択し、メインスイッチをAにします。
- 2 フィルム巻き上げモードボタンを押して表示パネルに（セルフタイマー／リモコン）を表示させます。

- （セルフタイマー／リモコン）を表示させてから約4分間カメラを放置するか、メインスイッチを（ロック）にするとセルフタイマー機能は解除されます。

- 3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、シャッター速度と絞り数値を確認します。
- 4 ファインダーをのぞいたままシャッターボタンを全押しすると、10秒後にシャッターが切れます。

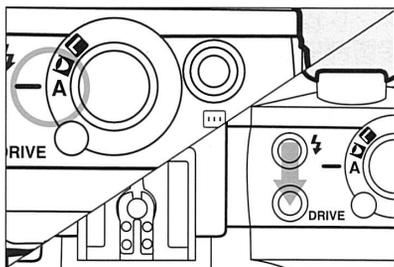
- セルフタイマーの作動は電子音と赤目緩和ランプで確認することができます。撮影2秒前に赤目緩和ランプが点灯に変わり、電子音の間隔が早くなります。
- セルフタイマー撮影を途中で解除するには、メインスイッチまたはモードダイヤルを操作します。

## Ⅶ セルフタイマーやリモートコントローラー（別売）を利用して撮る

### リモートコントローラーRC-1（別売）で撮る

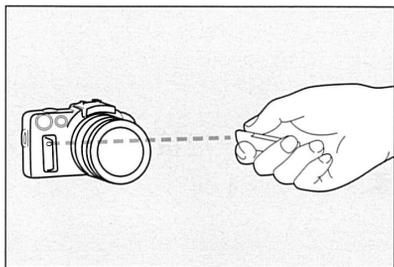
リモートコントローラーRC-1（別売）を利用するとカメラから離れたところからシャッターを切ることができます。

- リモコンを利用した撮影には三脚をご利用ください。
- リモートコントローラーRC-1の使用説明書も参照してください。



- 1 カメラのメインスイッチを**A**にします。
- 2 セルフタイマー／リモコンボタンを押して、表示パネルに (セルフタイマー／リモコンマーク) を表示します。

- セルフタイマー／リモコンボタンを押してから約4分間カメラを放置するとセルフタイマー機能は自動的に解除されません。

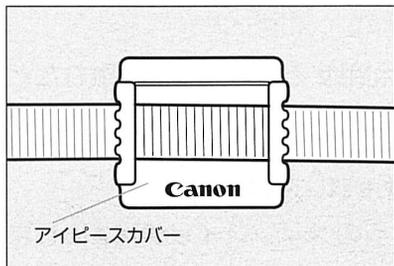


- 3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、シャッター速度と絞り数値を確認します。
- 4 リモコン送信機の送信部をカメラのワイヤレスリモコン受光部に向けて送信ボタンを押して撮影します。



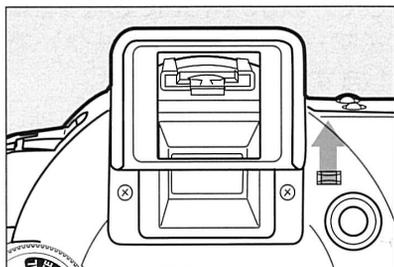
- 視線入力AFでセルフタイマー撮影するときはファインダーをのぞいたままシャッターを切ってください。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。そのようなときはアイカップを外して、ストラップについているアイピースカバーを接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください（→94ページ）。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（→60ページ）して撮影します。

## Ⅶ セルフタイマーやリモートコントローラー（別売）を利用して撮る

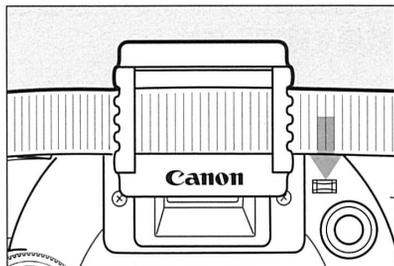


### アイピースカバーの使い方

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すとファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。そのようなときはアイカップを外して、ストラップに付属しているアイピースカバーを接眼部に取り付けます。



1 アイカップを取り外します。



2 アイピースカバーを接眼部に差し込みます。

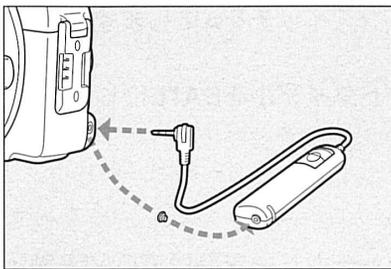
## Ⅶ セルフタイマーやリモートコントローラー（別売）を利用して撮る

### リモートスイッチRS-60E3（別売）で撮る

マクロ撮影、バルブ撮影、複写などを行うときに、別売のリモートスイッチRS-60E3と三脚を併用してカメラぶれを防ぐことができます。

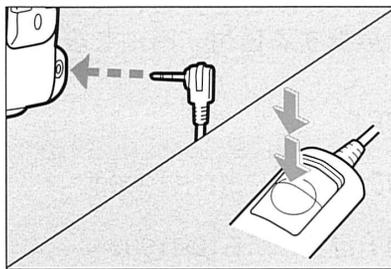
リモートスイッチのボタンはカメラのシャッターボタンと同じように2段階になっています。1段階まで押しと被写体にピントと露出が合い、2段階まで押しとシャッターが切れフィルムを巻き上げます。

- カメラにリモートスイッチを取り付けても、カメラのシャッターボタンは機能します。
- リモートスイッチRS-60E3の使用説明書も参照してください。



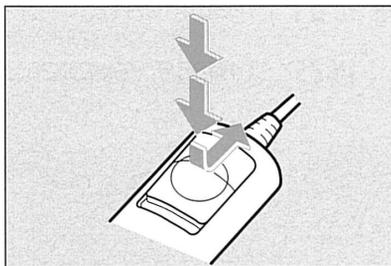
1 カメラのリモコンジャックカバーを外します。

- 外したカバーは紛失しないようリモートスイッチのプラグホルダーにはめて収納します。



2 リモートスイッチRS-60E3のプラグをリモコンジャックに差し込みます。

3 シャッターボタンの代わりにレリーズボタンを利用して撮影します。



### レリーズロックと解除の方法

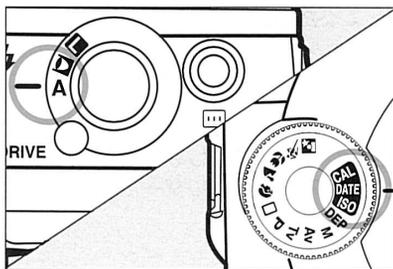
バルブ撮影や連続撮影時にはレリーズボタンを固定（レリーズロック）することができます。レリーズロックするには、レリーズボタンを2段階まで押しして図に示すように矢印方向にスライドさせます。

ロックの解除は反対方向にスライドさせます。

# VIII フロントプリント(デート)のセット

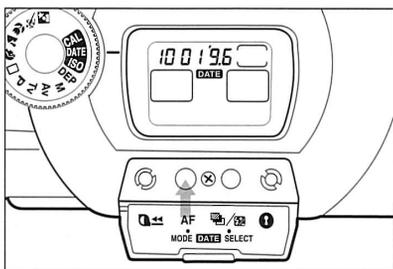
このカメラにはオートカレンダー(無期限)が組み込まれており、撮影コマ毎に撮影日時情報がフィルムの磁気記録部に記録されます。プリント作成時にこの情報を利用してプリントの表面および裏面に撮影の日時が印字されます。

- 各操作の前に、先ずはメインスイッチをAにしてください。

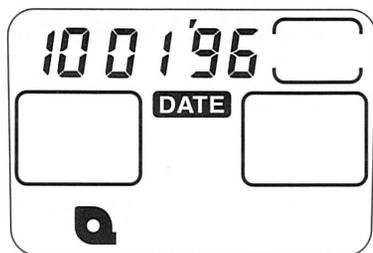


## 日付・時刻の選択

- 1 メインスイッチをAにします。
- 2 モードダイヤルをDATEにします。
- 3 スイッチカバーを開けてDATE表示切り換えボタンを押し、表示パネルに選択する日付/時刻を表示します。



OFF	
↓	
10 01 '96	10月1日1996年
↓	
01 10 '96	1日10月1996年
↓	
'96 10 01	1996年10月1日
↓	
14:25	14時25分(午後2時25分)

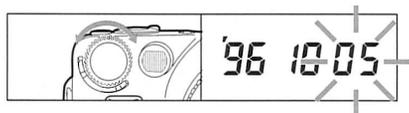


### 4 フロントプリントを選択してモードダイヤルを戻します。

- 表示パネルにフロントプリントマーク **DATE**が表示されます。
- フロントプリントの可否、文字の形、大きさと、色、印字位置はラボによって変わる場合があります。
- ・ 時・分は24時間制です。

### 日付・時刻の変更方法

- 1 モードダイヤルをDATEにします。
- 2 メインスイッチをAにします。
- 3 スイッチカバーを開けてDATE表示切り換えボタンを押し、表示パネルに変更する表示内容を表示します。
- 4 DATE修正位置選択ボタンを押して修正する数字を点滅させます。
- 5 電子ダイヤルを回して正しい数字をセットします。
- 6 点滅している数字がなくなるまで、DATE修正位置選択ボタンを押します。点滅している数字がなくなれば、日付（時刻）の変更は完了します。
- 7 モードダイヤルを戻します。

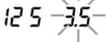
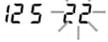
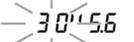
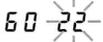
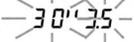


- オートカレンダーは本体の電池で作動しています。
- 本体の電池を抜いてもオートカレンダーの内容は約12時間記憶されています。
- 長時間本体の電池を抜いて保管した後、再び使用するときはオートカレンダーの日付、時刻を正しく合わせ直してください。
- フロントプリント指定のない場合、常にプリントの裏面には年・月・日・時・分が印字されます。又、フロントプリント指定時には、フロントプリントと同内容が印字されます。

# 資料

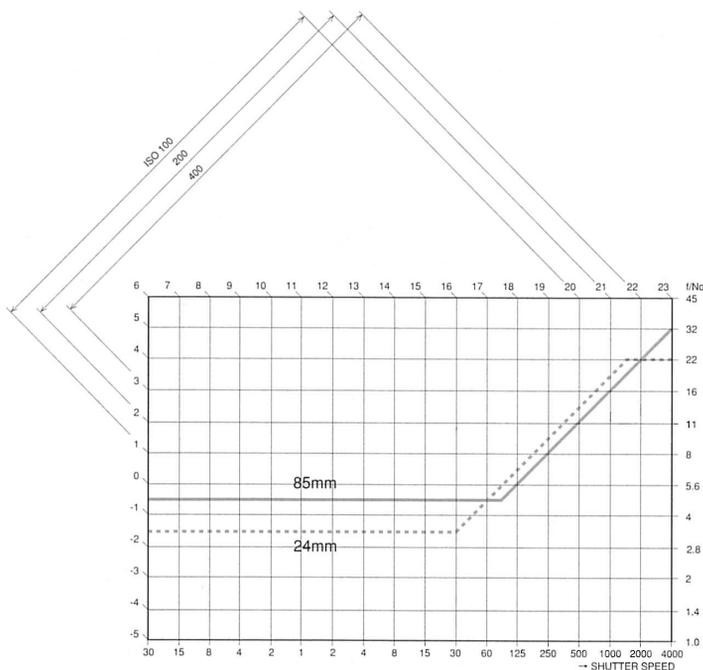
カメラを快適に使っていただくために、この「資料」を設けました。写真の基本的な用語の解説や撮影のときに参考になるカメラの機能情報、アクセサリーの紹介などをします。

## 露出警告表示一覧

撮影モードダイアルのマーク	表示警告 (点滅)	意味	対応
P	シャッター速度30"と使用レンズの最小絞り数値、開放絞り数値 	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	シャッター速度4000と使用レンズの最大絞り数値 	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	使用レンズの最小絞り数値 	露出アンダーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	使用レンズの最大絞り数値 	露出オーバーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。
Av	シャッター速度30" 	露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を小さくしてください。
	シャッター速度4000 	露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を大きくしてください。
DEP	セットされた絞り数値 	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	シャッター速度30"と使用レンズの最小絞り数値 	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。 (この時、プログラムAE撮影でのストロボ使用と同じ結果になります。)
	シャッター速度4000と使用レンズの最大絞り数値 	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。

## プログラム線図

レンズにEF24-85mm F3.5-4.5USMを使用して、プログラムAE (P) に設定したときのプログラム線図を以下に示します。



## 図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り値を表しています。

そして、左辺から上辺に斜め45°で目盛られている被写体輝度 (EV数値) の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り値の組み合わせが2本のラインで示されています。点線はEF24-85mmF3.5-4.5のUSM・ワイド・24mm時の、実線はテレ・85mm 時の組み合わせ特性を表しています。

例：85mm・被写体輝度がEV12の場合、EV12のライン（上辺の12と右下1/4000、1.0を結んだライン）と85mm時のプログラム特性を表す実線の交点に注目すると、1/125秒・F5.6が自動的に設定されることが分かります。

なお、左上の斜め両矢印の範囲は、各フィルム感度に対する測光輝度範囲を表しています。

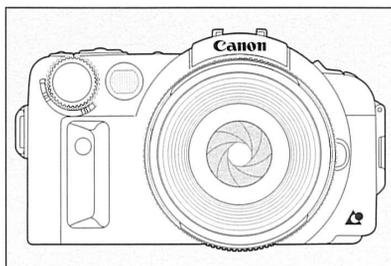
### 写真の基本用語解説

#### シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、4000 (1/4000秒) ~30" (30秒)、buLb (バルブ) となっています。

#### 絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさのことを絞り値と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0~64となっています。

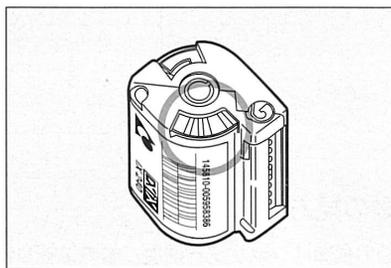


#### フィルム感度 (ISO値)

フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかをISO (International Standardization Organization/国際標準化機構) で定めた数値で表しています。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6~8000となっています。

ISO値が大きくなるほど光に対する感度が高くなります。フィルムの感度が高いほど撮影に必要な光の量は少なくなり、暗いところでも写真が写るようになります。

カートリッジフィルム感度情報はデータディスク部に入っています。

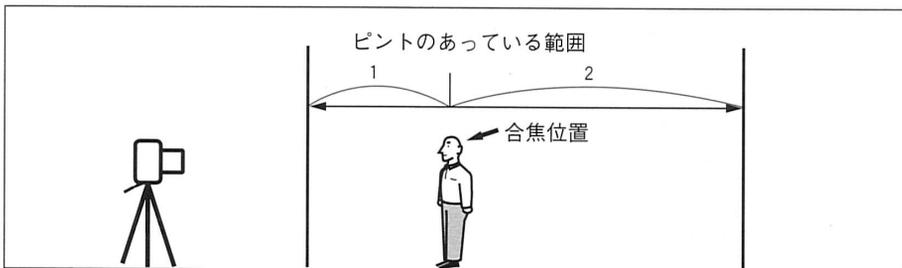


## 被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度と言い、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。  
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。  
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は手前側1に対して奥側が2の割合になる（下図参照）



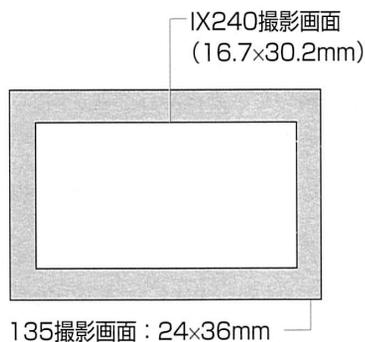
絞り数値F22



絞り数値F2

## EFレンズの有効撮影画角について

IX240の撮影画面が35mm判カメラの撮影画面より小さい(右図)ため、EOS IX Eに装着したEFレンズの有効撮影画角は、「表示焦点距離×約1.25倍」相当になります。



## 「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください（裏表紙にサービスセンターの一覧があります）。

症状	原因	解決方法	参照頁
1. カートリッジがセットできない	撮影済みあるいは現像済みのフィルムをセットしようとしていませんか？	カートリッジの「使用状態マーク」が未使用あるいは、撮影途中のものを使用してください。	3
	カメラのカートリッジ室内のゴミやほこりのためカートリッジのデータディスクが読み取り不能になっていませんか？	ブローなどでゴミやほこりを取り除いてください。	
2. 表示パネルに表示が出ない	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	26
	電池が逆向きに入っていませんか？	電池を正しい向きに入れなおしてください。	25
3. シャッターが切れない	メインスイッチは入っていますか？	メインスイッチを $\blacksquare$ あるいは A にしてください。	19
	モードダイヤルが機能セットゾーンになっていませんか？	モードダイヤルを撮影モードにしてください。	19
	カートリッジは正しくセットされていますか？（表示パネルにフィルム枚数が表示されていますか？）	カートリッジを正しく入れなおしてください。	29
	撮影済みのカートリッジがカメラに入っていませんか？（表示パネルにカートリッジマークが点滅していませんか？）	未使用カートリッジと交換してください。	29
	ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦ランプが点滅していませんか？）	AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）を参考にしてください。	61

# 資料

症状	原因	解決方法	参照頁
4. 写真がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチがMF（あるいはM）になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチをAFになおしてください。	27
	シャッターボタンを押すときに手ぶれを起こしていませんか？	手ぶれを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。	28
5 「撮影途中」のカートリッジを装填しても正しくセットされない	テレビやスピーカーなど強い磁気を発生する機器のそばでカートリッジを装填していませんか？	それらの機器から離れてカートリッジを装填してください。	33
	テレビ塔や電話局など強い電波を出している場所の近くでカートリッジを装填していませんか？	その場所からはなれてカートリッジを装てんするか、未使用のカートリッジを装てんしてください。	33
	外付けストロボのメインスイッチがONになっていませんか？	ストロボのメインスイッチをOFFにしてください。	33
6. 表示パネルに「  」のみが点滅している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換して、電池マークが点灯すれば正常に撮影できます。	13
	なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。	シャッターボタンを半押しして、電池マークが点灯すれば正常に撮影できます。 *以上の操作を何度しても電池マークが点灯しないときはカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	26 裏表紙
7. 表示パネルにフィルム送り作動表示とフィルムカウンターが点滅し、カメラが作動しない	フィルムを巻き戻す際に、不都合が起きました。	一度、電池を入れ直してからフィルム巻き戻しボタンを押してください。それでも作動しない場合はメインスイッチを  （ロック）にしてカメラをお近くのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	19

## 主なアクセサリー



### EOS専用EXシリーズストロボ

専用スピードライトとしてアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンタイプの大光量ズームストロボ380EX（最大ガイドナンバー38/ISO 100-m）、コンパクトストロボ220EX（最大ガイドナンバー22/ISO 100-m）などがあります。



### カメラケースEH10

カメラを保護するためのケースとしてレンズを付けたまま収納することができる専用セミハードケースがあります。

収納可能レンズ : EF 24-85/3.5-4.5 USM  
: EF 28-105/3.5-4.5 USM等



### アイカップEe

ファインダー内を見やすくするだけでなく、眼鏡をつけたままの撮影でも視線入力を確実にします。



### 視度補正レンズEe（10種）

接眼部を大きくカバーするアイカップ付きの視度補正レンズを取り付ければ、近視や遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。交換用視度補正レンズとして-4ジオプターから+3ジオプターまでの10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいた上でお買い求めください。



**アングルフインダーアダプターEd II**  
接写や複写などを行う際に、楽な姿勢でファインダーを見ることができるアングルフインダーBを取り付けるアダプターです。

- このアクセサリーを使用した場合、視線入力はできません。



### リモートスイッチRS-60E3

マクロ撮影や長時間露光（バルブ撮影）のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐ専用のケーブルリリースです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。



### リモートコントローラーRC-1

離れたところからカメラのシャッターを切ることができます。自分自身の入った記念撮影、バルブ撮影、接写や複写などに利用すると便利です。

## 主な性能の一覧

### 形式

型式	モータードライブ・ストロボおよび磁気IX機能内蔵 IX240 フォーカルプレーンシャッターAF/AE一眼レフカメラ 撮影 画面サイズ 16.7×30.2mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント (完全電子制御方式)

### ファインダー

型式	ペンタダハミラー使用のアイレベル式 プリント視野率 上下 左右とも95% (C/H/P全タイププリントマスク比)
倍率	0.6倍 (40mmレンズ・無限遠)
標準視度	-1ジオプター (アイポイント: 19.7mm)
フォーカシングスクリーン	固定式、全面ニューレーザーマットスクリーン
ファインダー情報	(1) 視野内 スーパーインポーズLCDによるAFフレーム、測距点位 置マーク プリントタイプマスク、C・H・Pプリント タイプ表示 (2) 視野外下部 シャッター速度、絞り値、  視線入力モード、* AEロ ック、  ストロボ充電完了、  ハイスピードシンクロ (FP発光)、  調光補正マーク、露出補正量、●AF合焦 マーク
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー (ミラー切れ： EF600mm f/4L USM装着時までなし)

### 露出制御

測光方式	6分割SPC使用・TTL開放測光 ① 評価測光 (3つのAFフレームに対応) ② 部分測光 (AEロック時自動設定、測光範囲：ファインダ ー画面の約6.5%) ③ 中央部重点平均測光 (マニュアル露出時自動設定)
撮影モード	① プログラムAE (プログラムシフト可) ② シャッター優先 AE ③ 絞り優先 AE ④ 深度優先AE ⑤ 全自動モード ⑥ イメージセレクトモード (5種) ⑦ ストロボAE: EXシリ ーズストロボ使用・E-TTLプログラムストロボAE /内蔵ス トロボ使用・TTLプログラムストロボAE/EZシリーズスト ロボ使用・A-TTL、TTLプログラムストロボAE ⑧ マニ ュアル

## 資料

手振れ警告	全自動モード、イメージセレクトモードに於いて、自動的にセットされたシャッター速度が「1/ (1.25×使用レンズの焦点距離)」以下となった場合、シャッター速度表示点滅(2Hz)警告
測光範囲	EV1~20 (常温常湿・50mm f/1.4・ISO100)
使用フィルム感度	ISO6~8000 (ISO25~8000・1/3段ステップ自動セット)
露出補正	(1) AEB: 1/2段ステップ±2段・IX情報/シリーズシーン自動記録 フィルム巻き上げモードに従って、0/-/+の順で撮影、セルフタイマー併用時は、3枚連続撮影 (2) マニュアル補正: 1/2段ステップ±2段(AEB併用可能)
AEロック	(1) オートAEロック ONE SHOT AF・評価測光時、合焦と同時にAEロック (2) マニュアルAEロック AEロックボタン押し・中央部部分測光・AEロック

### オートフォーカス

AF制御方式	マルチBASISによるTTL-CT-SIR方式
測距点	3点( + )
測距輝度範囲	EV2~18.5 (ISO100)
AFフレーム選択	① 自動選択: カメラによる自動選択 ② 手動選択: 3点のAFフレームから任意の1点を手動選択 ③ 視線入力: 視線入力によるAFフレーム選択
フォーカスモード	① ONE SHOT AF: 測距完了にて停止、測距完了後にレリーズ可能 ② AI SERVO AF: 被写体の動きに追従、随時レリーズ可能、動体予測機能装備 ③ AI FOCUS AF: ONE SHOT AFでとらえた被写体が前後に移動を始めると、その移動量を検知しAI SERVO AFに自動的切り換え(全自動モード時のみ自動セット) ④ マニュアルフォーカス: フォーカスモードスイッチ・MF、手動フォーカスリング操作による
AF補助光	内蔵: 3つのAFフレームに対応、必要に応じ自動投光

### シャッター

型式	全速電子制御・縦走りフォーカルブレンシャッター
シャッター速度	1/4000秒~30秒(1/2段ステップ)、バルブ
ストロボ同調最高速度	X=1/200秒
レリーズ方式	ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー	電子制御式・時限10秒

## ■フィルム巻き上げ関係

フィルム装填	ワンタッチ装填・新品フィルム撮影1枚目自動セット 「撮影途中」カートリッジ装填時は未撮影先頭コマ自動セット
巻き上げ	自動 ①一枚撮り ②連続撮影(秒間最高約2.5コマ)
巻き戻し	自動・フィルム終了と同時に自動巻き戻し/撮影途中巻き戻し可能 巻き戻し時間: 約12秒(25枚撮りフィルム)/作動音: 54dB

## ■内蔵ストロボ

型式	リトラクタブル式TTL自動調光ストロボ(直列制御式) ①ガイドナンバー: 11 (ISO100・m) ②充電時間: 約2秒 ③照射角: 焦点距離22mm画角に対応 ④発光条件: 全自動、ポートレート、クローズアップ、夜景モードに於いて、低輝度・日中逆光時自動ポップアップ・自動発光、クリエイティブゾーンではストロボボタンにより手動ポップアップ・常時発光
調光絞り値	①全自動・P: TTLプログラムにより調光絞り値自動セット ②AV・マニュアル: 任意の絞り数値を手動セット ③TV: セットしたシャッター速度に対し、絞り数値を自動セット
同調シャッター速度	①全自動/P: 1/60~1/200秒自動セット ②AV: 設定絞り値に対し、30秒~1/200秒自動セット ③TV・マニュアル: 1/200秒以下の任意(1/2段毎)のシャッター速度を手動セット
調光方式	フィルム面反射測光によるTTL自動調光(測距点連動3分割調光)
調光連動範囲	ネガカラーフィルム・F1.4レンズ使用にて ISO100: 1~11m/ISO200: 1~15m/ISO400: 1~22m 調光補正可能 1/2段ステップ±2.0段(外付けストロボの調光補正も可能)
赤目緩和機能	全自動・ポートレート・夜景モード、ストロボポップアップ・低輝度時、赤目緩和ランプ(AF補助光兼用ランプ)自動点灯、レリーズロックなし

■IX (情報入出力) 機能によるプリント指定

プリントタイプ切り換え ……………C・H・Pの内、任意のプリントタイプ選択可能  
 C・Pモード時は、ファインダー内LCDマスク運動表示

- (1) マニュアル選択  
 プリントタイプ切り換えボタン押しにより切り換え(循環)
- (2) 視線入力選択  
 ワンショットAF合焦・シャッターボタン半押し状態で、  
 ファインダー内のC・H・Pマークを注視することにより  
 切り換え

印字機能 ……………(1) プリント表印字 (フロントプリント)  
 下記の内、選択した一種をプリント表面にプリント  
 ①なし ②月・日・年 ③日・月・年 ④年・月・日  
 ⑤時・分 (フロントプリントの可否・文字形状/大きさ/色/書き込み位置は、ラボ仕様に依存)

- (2) プリント裏面印字  
 ①表印字指定のない場合、常時 年・月・日・時・分を  
 印字。表印字指定のある場合は表印字と同内容を印字。  
 ②焦点距離 ③開放絞り値 ④シャッター速度 ⑤絞り  
 値 ⑥露出補正量 (印字形態はラボに依存)

プリント条件 ……………(1) 全コマ同一条件プリント  
 指定(①マーク点灯)状態・フィルム巻き戻しで磁気IX情  
 報記録

- (2) シリーズシーン  
 AEBおよびAEロック連続撮影時、磁気IX情報自動記録

撮影モード のマーク	AF			給送		測光
	ワンショット	AIサーボ	AIフォーカス	一枚撮り	連続撮影	評価測光
<input type="checkbox"/>			●	●		●
	●				●	●
	●			●		●
	●			●		●
	●	●			●	●

撮影モード のマーク	ストロボ		測距点			合焦 音	途中巻 き戻し	赤目	セルフ
	自動発光	OFF	視線	自動	任意				
<input type="checkbox"/>	●			●	-	●	○	○	○
	●		○	○	-	●	○	○	○
		●	○	○	-	●	○	○	○
	●		○	○	-	●	○	○	○
	●	●	○	○	-	-	○	○	○

●：自動セット

○：選択可能または設定可能

## ■ 本体関係

フラッシュ接点	アクセサリースュー部：X・直結接点
外付けストロボシステム対応	E-TTL自動調光、A-TTL自動調光、TTL自動調光に対応
リモートコントロール	(1) リモートコントローラーRC-1対応・ワイヤレスリモコン受信機能内蔵 (2) リモートスイッチRS-60E3対応・Φ2.5mmミニジャック型リモート端子 標準装備
オートカレンダー機能	内蔵(1996年1月1日～無期限/大小・閏年自動修正/電源：本体共用)
電源	リチウム電池 CR123A (またはDL123A) 2個
撮影本数	25枚撮りフィルム・ストロボ50%使用にて常温：約35本 低温(-20℃)：約15本
バッテリーチェック	メインスイッチ"L"位置解除で自動バッテリーチェック、表示パネルに4段階常時表示
メインスイッチ	L・  ・Aの3ポジション
大きさ	132.2(W)×79.5(H)×58.5(D)mm (ボディ厚：42.5mm)
質量	445g (ボディのみ)

## ストロボの調光連動距離範囲

(EF24-85mm F3.5-4.5USM を使用した場合)

	24 mm		85 mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1～4.4m	1～3.1m	1～3.4m	1～2.4m
200	1～6.2m	1～4.4m	1～4.8m	1～3.4m
400	1～8.8m	1～6.2m	1～6.9m	1～4.8m

## アフターサービスについて

- 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお問い合わせいただき、お買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
- 修理品をご送付の場合は、見本のカートリッジフィルムやプリントを添付するなど修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。